テレコンポーネントライブラリ(形式：TLCOM)

取扱説明書

対応 Ver1.2x

(株)エム・システム技研

NM-6847　改 9

目次

1. はじめに 5

1.1. 本書について 5
1.2. 対応バージョン 5

2. TLCOMの特長 6

3. ソフトウェアの使用環境 6

4. ソフトウェア構成 7

5. インストール 10

6. VisualBasicでの利用 11

6.1. ダイアログの表示 11
6.2. 参照ライブラリの選択 12

7. メソッド一覧 13

8. Ｉ／Ｆ仕様 14

8.1. 通信ポート番号 14
8.2. 通信継続モード 14
8.3. TLXZ_init 15
8.4. TLXZ_term 16
8.5. TLXZ_open 17
8.6. TLXZ_close 18
8.7. TLXZ_stat 19
8.8. TLXZ_rep_get 20
8.9. TLXZ_connect 21
8.10. TLXZ_disconnect 22
8.11. TLXZ_req 23
8.12. TLM_stat 24
8.13. TLM_req 25
8.14. 要求種別番号 26
8.15. 要求種別パラメータ 27
8.15.1. 10 事象発生カウンタ要求 27
8.15.2. 11 Do16 点出力実行要求 27
8.15.3. 12 通報停止実行要求 28

8.15.4. 13 トレンド記録間引き要求 28
8.15.5. 16 FAX 日報データ読込要求 29
8.15.6. 17 FAX 月報データ読込要求 29
8.15.7. 18 FAX デマンド報データ読込要求 30
8.15.8. 19 FAX 日報カウンタリセット要求 31
8.15.9. 20 FAX 月報カウンタリセット要求 32
8.15.10. 21 FAX デマンドカウンタリセット要求 33
8.15.11. 22 異常ログ・運転ログリセット要求 34
8.15.12. 23 トレンド記録一括要求 34
8.15.13. 24 PH/PL 設定要求 35
8.15.14. 26 パルスカウント要求 36
8.16. 音声指定パラメータ 37
8.17. ステータス一覧 38
8. 18. “テレロガー”での使用方法 40
8.19. “えむとーく”での使用方法 41
9. テレロガーデータ受け渡しファイルフォーマット 42
9.1. 通報電文 42
9.2. 異常、運転ログ及びサマリーデータ 43
9.3. トレンド、間引きトレンドデータ 44
9.4. 瞬時値データ 45
9.5. 事象カウントデータ 46
9.6. FAX帳票日報データ読込データ 47
9.7. FAX帳票月報データ読込データ 48
9.8. FAX帳票デマンド報データ読込データ 49
9.9. 一括トレンドデータ 50
9.10. PH/PL 設定データ 51
9.11. パルスカウントデータ 52
9.12. 日時読込データ 53
10. 使用上の注意事項 54
10.1. TLCOM のインストール 54
10.2. 通信ポート 54
10.3. モデム間の接続確認 54
10.4. 通報電文の管理 55
10.4.1. 通報電文の保存件数 55
10.4.2. 通報電文保存ファイル 55

10.4.3. 通報電文管理期間 55
11. サンプルプログラム 56
11.1. TLXZ 画面 57
11.2. TLX(Z)環境設定 58
11.3. TLX(Z)要求コマンド設定 60
11.4. 03 異常ログ、04 異常サマリー、05 運転ログ、06 運転サマリー表示 64
11.5. 07 トレンドデータ表示 65
11.6. 07 トレンドグラフ表示 66
11.7. 08 瞬時値表示 67
11.8. 10 事象発生カウント表示 68
11.9. 13 間引きトレンドデータ表示 69
11.10. 16 FAX 日報表示 70
11.11. 17 FAX 月報表示 70
11.12. 18 FAX デマンド報表示 71
11.13. 23 一括トレンドデータ表示 71
11.14. 25 PH/PL 設定値データ表示 72
11.15. 26 パルスカウントデータ表示 72
11.16. 87 取得日時表示 73
11.17. TLM画面 74
11.18. TLM環境設定 75

1. はじめに

このたびは、エムシステム技研のソフトウェアパッケージをお買い上げいただき、ありがとうございます。以下の事項をご確認の上、ご利用下さい。

1.1. 本書について

本書は、テレコンポーネントライブラリ（形式：TLCOM）について説明しています。

1.2. 対応バージョン

本書に対応するTLCOMのバージョンは、1．2xです。

2. TLCOMの特長

テレコンポーネント（以下：TLCOM）は、VisualBasicに対応したコンポーネントライブラリです。信号監視装置テレロガーシリーズ（形式：TLX，TLX1，TL4－LX1，TLZ，TLZ1）および、えむとーく（形式：TLM）との通信機能を提供し、ユーザーアプリケーション開発工数の軽減を目的としています。

ご注意：ＴＬ４－ＬＸ１ご使用の際は、ＴＬＸ１としてご使用下さい。

TLCOMの特長を以下に示します。

・Windowsアプリケーションの開発環境は、VisualBasic6．0に対応しています。
・作成するアプリケーションにおいて、テレロガーとの接続機能、通信機能、データ取得機能などを提供します。
・取得したデータは、テキスト形式のデータファイルとして保存するため、直接EXCELなどに取り込むことが可能です。
・サンプルプログラムが添付されていますので、TLCOMの利用方法を容易に理解できます。

3. ソフトウェアの使用環境

・ 本ソフトウェアは、OSとしてWindows98またはWindowsNT4．0 ServicePack3以上、Windows2000、WindowsXP、WindowsVista 32bit 版、Windows7 Professional 32 bit 版の環境で動作します。
（注：全ての環境での動作を保証するものではありません。）
・但し、その他にソフトウェア開発環境として、VisualBasic6．0が使用される環境を想定しています。付属のサンプルプログラムは、この環境下で動作するようになっていますのでご注意ください。
・他のアプリケーションと共存する場合は、インストール・アンインストール時に、共有ライブラリ（リソース）を勘案して作業されますようお願いします。

4. ソフトウェア構成

インストールディスクには、以下のコンポーネントが格納されています。ご使用の形態に従ってインストールして下さい。

［TLCOM. DLL］

TLCOMの本体です。

［TLCOM. Source］

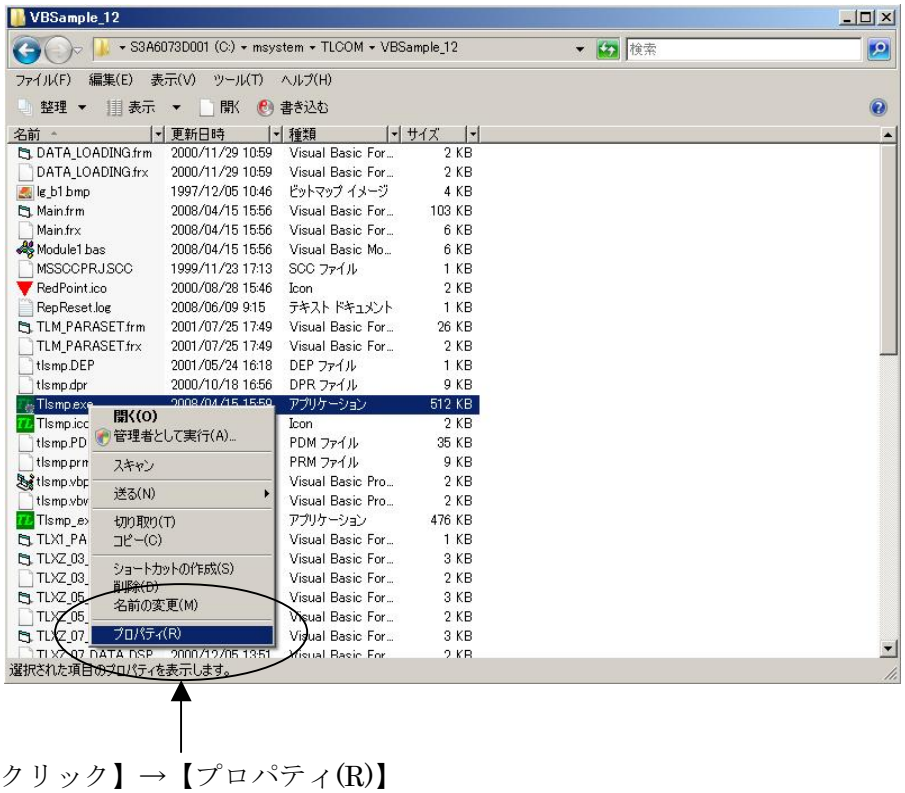
TLCOMソースファイルです。参考にして下さい。

［Sample for VisualBasic］

TLCOMを利用し、VisualBasicで作成されたサンプルプログラムです。

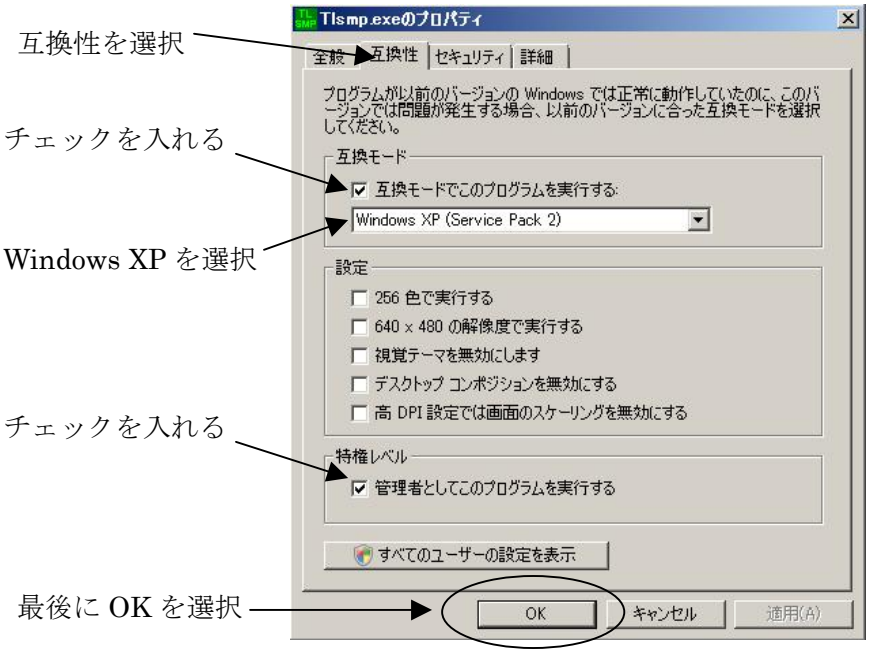
本プログラムを Windows Vista にてご使用の場合、以下の設定変更が必要です。

①実行ファイル Tlsmp.exe のプロパティを表示します。

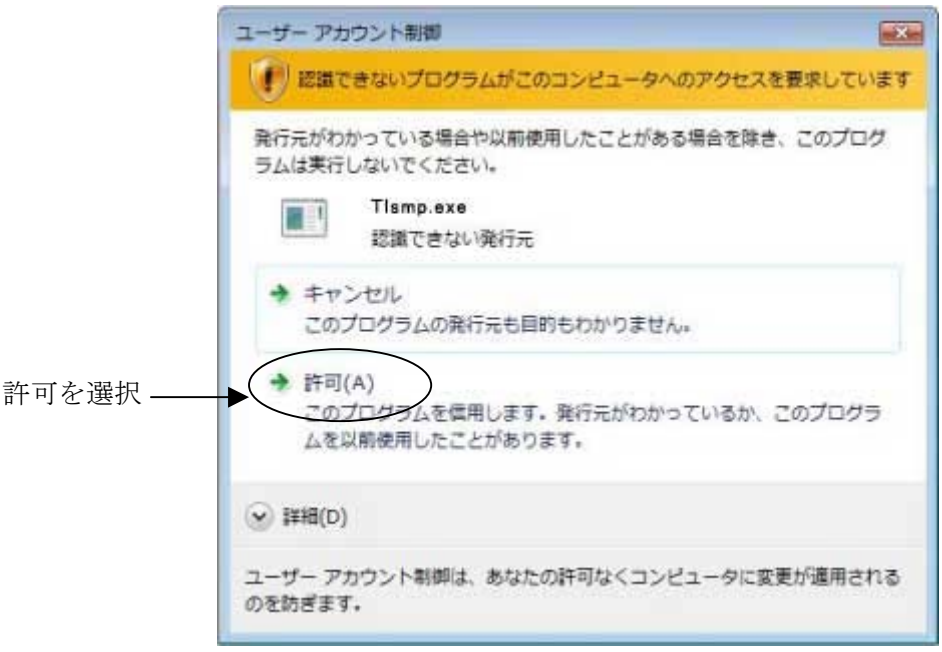

VBSample_12
S3A6073D001 (C:) ▸ msystem ▸ TLCOM ▸ VBSample_12
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)
整理 表示 開く 書き込む
名前 更新日時 種類 サイズ
DATA_LOADING.frm 2000/11/29 10:59 Visual Basic For... 2 KB
DATA_LOADING.frx 2000/11/29 10:59 Visual Basic For... 2 KB
lg_b1.bmp 1997/12/05 10:46 ビットマップ イメージ 4 KB
Main.frm 2008/04/15 15:56 Visual Basic For... 103 KB
Main.frx 2008/04/15 15:56 Visual Basic For... 6 KB
Module1.bas 2008/04/15 15:56 Visual Basic Mo... 6 KB
MSSCCPRJ.SCC 1999/11/23 17:13 SCC ファイル 1 KB
RedPoint.ico 2000/08/28 15:46 Icon 2 KB
RepReset.log 2008/06/09 9:15 テキスト ドキュメント 1 KB
TLM_PARASET.frm 2001/07/25 17:49 Visual Basic For... 26 KB
TLM_PARASET.frx 2001/07/25 17:49 Visual Basic For... 2 KB
tlsmp.DEP 2001/05/24 16:18 DEP ファイル 1 KB
tlsmp.dpr 2000/10/18 16:56 DPR ファイル 9 KB
Tlsmp.exe アプリケーション 512 KB
Tlsmp.icc Icon 2 KB
tlsmp.PD PDM ファイル 35 KB
tlsmp.prm PRM ファイル 9 KB
tlsmp.vbp Visual Basic Pro... 2 KB
tlsmp.vbw Visual Basic Pro... 2 KB
Tlsmp_ex アプリケーション 476 KB
TLX1_PA Visual Basic For... 1 KB
TLXZ_03_ Visual Basic For... 3 KB
TLXZ_03_ Visual Basic For... 2 KB
TLXZ_05_ Visual Basic For... 3 KB
TLXZ_05_ Visual Basic For... 2 KB
TLXZ_07_ Visual Basic For... 3 KB
開く(O)
管理者として実行(A)...
スキャン
送る(N)
切り取り(T)
コピー(C)
ショートカットの作成(S)
削除(D)
名前の変更(M)
プロパティ(R)
選択された項目のプロパティを表示します。

【右クリック】→【プロパティ(R)】

②互換性を表示し、互換モードを Windows XP、特権レベルにチェックを入れ、OK を選択して下さい。



③上記①②設定後、Tlsmp.exe 実行時以下のメッセージが表示されますが、許可を選択して下さい。



［Doc］

TLCOM取扱説明書（本書）のPDFファイルです。

［Shared. dlls］

システム共通ライブラリです。既にこれらのライブラリがインストールされている場合は、インストールをしなくてもかまいませんが、TLCOMが動作するバージョンのライブラリになっています。他のアプリケーションとの取り合いがありますが、なるべくインストールして下さい。

ご注意：本ソースファイルのコーディング、その他の内容に対するご質問等のお問い合わせは対応いたしませんので、ご容赦下さい。

5. インストール

１．TLCOMインストールディスクをドライブに挿入します。

２．Windowsのスタートメニューより「ファイル名を指定して実行」を選択し、「名前」にインストールディスクのSetup. exeを指定（“E:¥Setup. exe”など）し、OKボタンをクリックします。

３．TLCOMのインストーラが起動しますので、画面のメッセージに従ってインストールを進めて下さい。また、コンポーネントの選択画面では、インストールするソフトウェアの種類を選択します。コンポーネントの内容については、“ソフトウェア構成”の項を参照して下さい。
尚、インストールするディレクトリの名称には、漢字やカナなどの２バイト文字を利用しないで下さい。必ず、半角の英数字、アンダースコア”_”を利用してください。ＴＬＣＯＭが正しく認識されない場合があります。

４．コマンドプロプト画面を開き、下記のコマンドを実行して下さい。

Regsvr32.exe　tlcom.dll(Enter)

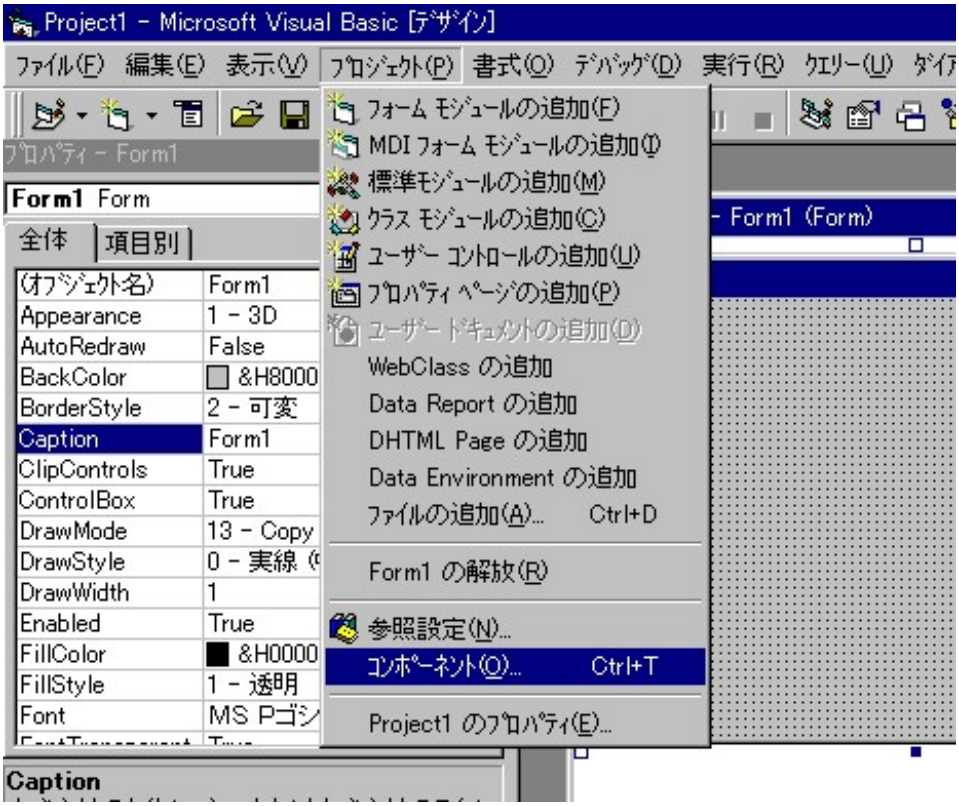
尚、Regsvr32.exe は、システムディレクトリ（WindowsＮＴの場合は、通常c:￥WINNT￥SYSTEM32 など）にあります。実行する際は、ディレクトリパスを考慮して実行下さい。正常に実行されると”DllRegisterServer in tlcom.dll succeeded”と表示され、TLCOM が利用できる状態になります。

6. VisualBasicでの利用

VisualBasicにおいてTLCOMを利用するには、参照設定が必要です。以下の手順で、設定を行って下さい。尚、VisualBasic のバージョンは 6.0、サービスパックは、ServicePack 5 以上を必ずインストールして下さい。

6.1. ダイアログの表示

VisualBasicのメニューから「プロジェクト(P)」→「参照設定(N)」をクリックし、参照設定ダイアログを表示します。



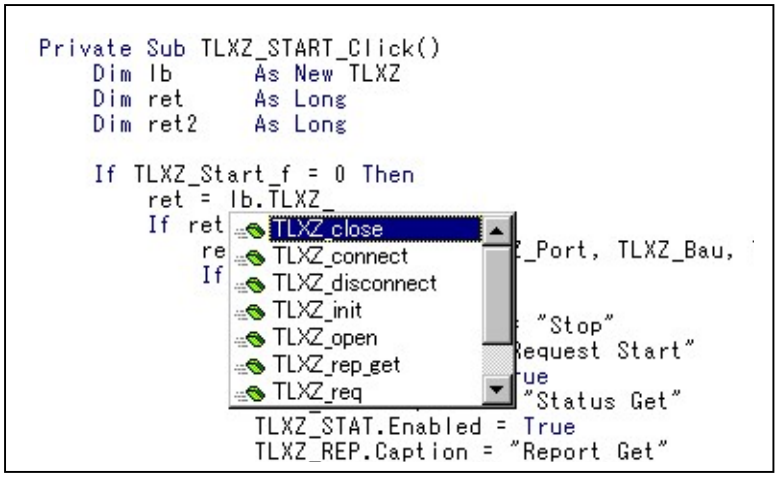
6.2. 参照ライブラリの選択

参照設定ダイアログの中から、TLCOMタイプライブラリをチェックします。TLCOMタイプライブラリが表示されない場合は、「参照(B)」ボタンを押し、インストールしたTLCOM. dllファイルを指定して下さい。ライブラリを指定したら、ＯＫボタンを押し、ダイアログを閉じます。

尚、選択時に表示されるTLCOMタイプライブラリのバージョンは、実際と異なる場合があります。その場合は、TLCOMタイプライブラリを一旦選択、ＯＫボタンを押し、再度、参照設定ダイアログを開いて確認して下さい。

これで、TLCOMが利用可能になります。

以下は、TLCOMコンポーネントライブラリ選択後のコーディング時の状態です。



7. メソッド一覧

TLCOMライブラリは、テレロガーシリーズ（TLX, TLX1, TLZ, TLZ1）および、えむとーく（TLM）との通信を実現するために、以下に示すメソッドを提供します。

＊メソッド名のTLXZ_，TLM_は、対象機器を表します。

メソッド名	機能概要
TLXZ_init	通信を行うためのスレッドを起動します。
TLXZ_ term	通信を行うためのスレッドを終了させます。
TLXZ_open	通信ポートの初期化とモデムの初期化を行います。
TLXZ_close	通信ポートの解放を行います。
TLXZ_stat	通信ポートの状態と、通報件数の取得を行います。
TLXZ_rep_get	通報電文の取得を行います。
TLXZ_connect	テレロガーに電話をかけます。
TLXZ_disconnect	テレロガーとの通話を終了します。
TLXZ_req	テレロガーへの要求コマンドを送信します。
TLM_stat	通信ポートの状態と、直前依頼終了コード取得を行います。
TLM_req	えむとーくに通報依頼を行います。

8. Ｉ／Ｆ仕様

以下に、各メソッドのI／F仕様を記述します。

8.1. 通信ポート番号

各メソッドのパラメータ（TLXZ_init，TLXZ_term を除く）にある通信ポート番号は、０から４の値をとり、０＝COM1、1＝COM2、2＝COM3、3＝COM4、4＝COM5、を意味します。

また、TLXZ_open では、さらに５から９の値をとり、通信継続モード※での通信ポート初期化となり、それぞれ 5＝COM1、6＝COM2、7＝COM3、8＝COM4、9＝COM5、を意味します。

※“通信継続モード”の項を参照

8.2. 通信継続モード

TLCOM は、テレロガーからの通報電文の受信を終了すると、通常は、電話回線の接続を切断しますが、通信継続モードでは、接続をそのまま維持します。これにより通報時の電話回線接続を継続したまま、要求コマンドの送信が可能になります。

通信継続モードは、テレロガーの種類により利用できるものと、利用できないものがあります。詳細は、テレロガーの説明書をご参照ください。

尚、テレロガーとの通信タイムアウト時間は、30秒です。30秒間テレロガーとの間で通信がない場合、TLCOM は、回線を切断します。

8.3. TLXZ_init

メソッド名	TLXZ_init	
概要	通信を行うためのスレッドを起動します	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_init（）As Long		
パラメータ	I／O	詳細
復帰値	詳細	
0	正常	
－1	既に起動済み	
備考	アプリケーションプログラム開始時に、1度だけ呼び出します。	

8.4. TLXZ_term

メソッド名	TLXZ_term	
概要	通信を行うためのスレッドを終了させます	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_term（）As Long		
パラメータ	I／O	詳細
復帰値	詳細	
0	正常	
－1	スレッドは起動されていない	
備考	アプリケーションプログラム終了時に1度だけ呼び出します。	

8.5. TLXZ_open

メソッド名	TLXZ_open	
概要	通信ポートの初期化とモデムの初期化を行います	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_open(port As Long, spd As Long, dtl As Long, stb As Long, par As Long, flw As Long, icm As String)As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
spd	I	通信速度 0＝4800　1＝9600　2＝19200　3＝38400
dtl	I	データ長 0＝8bits　1＝7bits
stb	I	ストップビット　0＝1bit　1＝1. 5bit　2＝2bits
par	I	パリティ　0＝non　1＝even　2＝odd
flw	I	フロー制御　0＝cts/rts 1＝non
icm	I	モデム初期化コマンド
復帰値	詳細	
0	正常	
－1	エラー	
備考		

8.6. TLXZ_close

メソッド名	TLXZ_close	
概要	通信ポートの開放を行います	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_close（port As Long)As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
復帰値	詳細	
0	正常	
－1	エラー	
備考		

8.7. TLXZ_stat

メソッド名	TLXZ_stat	
概要	通信ポートの状態と、通報件数の取得を行います	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_stat(port As Long, rect As Long)As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
rect	O	受信済み通報数
復帰値	詳細	
－1	エラー	
その他	ポートステータスコード（ポートステータス一覧の章を参照）	
備考	受信済み通報数は、未読込数です。	

8.8. TLXZ_rep_get

メソッド名	TLXZ_rep_get	
概要	通報電文の取得を行います	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_rep_get(port As Long, fname As String) As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
fname	I	通報電文格納ファイル名
復帰値	詳細	
0	通報無し	
1	通報有り	
－1	エラー	
備考	1回の呼出で、1電文を取得します。指定ファイルは、毎回上書きされます。	

8.9. TLXZ_connect

メソッド名	TLXZ_connect	
概要	テレロガーに電話をかけます	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_connect（port As Long, tknd As Long, tlk As Long, tno As String, pass As String, kwt As Long)As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
tknd	I	回線種別　0＝トーン　1＝パルス
tlk	I	相手機器種別 0＝TLX、1＝TLZ、2＝TLZ1、3＝TLX1
tno	I	電話番号
pass	I	テレロガーの着信時パスワード
kwt	I	識別信号送出待ち秒数
復帰値	詳細	
0	正常	
－1	エラー	
備考	ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞは、相手がTLX(1)時有効です。TLZ(1)時は"0000"を指定して下さい。	

8.10. TLXZ_disconnect

メソッド名	TLXZ_disconnect	
概要	テレロガーとの通話を終了します	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_disconnect（port As Long)As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
復帰値	詳細	
0	正常	
－1	エラー	
備考		

8.11. TLXZ_req

メソッド名	TLXZ_req	
概要	テレロガーから各種データの取得を行います	
VisualBasic	コーリングシーケンス	
TLXZ_req（port As Long, kind As Long, pass As String, stdt As String eddt As String, cflg As String, fname As String）As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
kind	I	要求種別 “要求種別番号”の章を参照
pass	I	テレロガーのホスト要求時パスワード（テレロガーの着信時パスワードとは異なります）
stdt	I	始端日時　要求種別3, 4, 7, 13、23、97の時必要
eddt	I	終端日時　要求種別3, 4, 7、13、23 の時必要
cflg	I	要求種別パラエータ “要求種別パラメータ”の章を参照
fname	I	データ格納ファイル名
復帰値	詳細	
0	正常に受け付けた	
－1	受付不可	
備考	データ格納ファイル名は、呼出ごとに上書きされます。	

8.12. TLM_stat

メソッド名	TLM_stat
概要	通信ポートの状態と、直前依頼終了コードの取得を行います
VisualBasic　コーリングシーケンス	
TLM_stat　(port As Long, erc As Long)As Long	

パラメータ	I／O	詳細
port	I	ポート番号
erc	O	前回通報終了時コード

復帰値	詳細
－1	エラー
その他	通信ポートステータスコード（“ステータス一覧”の章を参照）

備考	前回通報終了時コードは、１回の通報に対し１度だけ取得可能です。

8.13. TLM_req

メソッド名	TLM_req	
概要	えむとーくに通報依頼を行います	
VisualBasic　コーリングシーケンス		
TLM_req（port As Long, kind As Long, tknd As Long, tno As String, pass As String, msg As String, bnum As Long, tmlt As Long, voic As Long）As Long		
パラメータ	I／O	詳細
port	I	通信ポート番号
kind	I	要求種別　1=電話音声　2=ポケベル　3=漢字ポケベル
tknd	I	回線種別　1=トーン　2=10パルス　3=20パルス
tno	I	電話番号（全角SJIS）
pass	I	パスワード（漢字ポケベル用）（全角SJIS）
msg	I	電文（全角SJIS）
bnum	I	呼出ベル回数
tmlt	I	通話制限時間（秒）
voic	I	音声指定（音声指定パラメータの章を参照）
復帰値	詳細	
0	正常に受け付けた	
—1	受付不可	
備考		

8.14. 要求種別番号

要求種別番号

０３：異常ログ要求
０４：運転ログ要求
０５：異常サマリー要求
０６：運転サマリー要求
０７：トレンド記録要求
０８：瞬時値要求

１０：事象発生カウント要求
１１：DO16点出力実行要求
１２：通報停止実行要求
１３：トレンド記録間引き要求

１６：FAX帳票日報データ読込み要求
１７：FAX帳票月報データ読込み要求
１８：デマンド報データ読込み要求
１９：日報カウンタ　リセット要求
２０：月報カウンタ　リセット要求
２１：デマンドカウンタ　リセット要求
２２：異常ログ・運転ログ　リセット要求
２３：トレンド一括要求
２４：PH／PL設定要求
２５：PH／PL読込要求
２６：パルスカウント読込要求
８７：日時読込要求
９７：日時書込要求

尚、テレロガーの種類により、利用可能な要求種別番号は異なります。詳細は、テレロガーの説明書を参照下さい。

8.15. 要求種別パラメータ

要求種別パラメータは、要求種別に応じて以下のように指定します。尚、テレロガーの説明書も併せて、ご覧下さい。

8.15.1. 10 事象発生カウンタ要求

データ取得後のカウンタ値のクリアの有無を指定します。

パラメータフォーマット

AA‥‥‥AA

項目の並びは順に、事象１、事象２、‥‥‥事象１２８

A：クリアの有無

０：クリアしない、１：クリアする

要求種別パラメータの全体の長さ

TLX,TLX1：１２８バイト　TLZ,TLZ1：64 バイト

例、事象 1：クリアする、事象 2：クリアしない、事象 3：クリアしない、
事象 4：クリアする... の場合

1001‥‥

8.15.2. 11 Do16 点出力実行要求

出力設定の有効・無効と出力値を指定します。

パラメータフォーマット

ABABABABABABABABABABABABABABAB

項目の並びは順に、Do1, Do2…Do16

A：出力設定の有効・無効

0：無効（設定しない)、1：有効（設定する）

B：出力値

0：オフ、1：オン

要求種別パラメータの全体の長さ

32 バイト

例、Do1：設定有効／出力値オン、Do2：設定有効／出力値オフする、
Do3 設定無効‥‥　の場合

111000‥‥

8.15.3. 12 通報停止実行要求

通報停止設定の有効・無効と通報停止解除・設定を指定します。

パラメータフォーマット

ABAB‥‥‥ABAB

項目の並びは順に、事象１、事象２、…事象 128

A：通報停止設定の有効・無効

0：無効（設定しない)、1：有効（設定する）

B：通報停止解除／設定

0：通報停止解除、1：通報停止設定

要求種別パラメータの全体の長さ

256 バイト

例、事象 1：設定有効／通報停止解除、事象 2：設定有効／通報停止設定、事象 3：設定無効、･･･の場合

101100…

8.15.4. 13 トレンド記録間引き要求

トレンド記録間引き要求の間引き時間コードと間引き量を指定します。

パラメータフォーマット

AABB

AA：間引き時間コード

00：間引きしない、01：秒、02：分、03：時

BB：間引き量

間引き量を２バイトで指定

要求種別パラメータの全体の長さ

4 バイト

例、間引きコード：秒、間引き量：60 の場合

0160

8.15.5. 16 FAX 日報データ読込要求

FAX 日報データ読込要求の要求コードを指定します。

パラメータフォーマット

AA

AA：要求コード

71：当日日報、72：前日日報、

73：前前日日報、74：前々前日日報

要求種別パラメータの全体の長さ

2 バイト

例、要求コード：当日日報　の場合

71

8.15.6. 17 FAX 月報データ読込要求

FAX 月報データ読込要求の要求コードを指定します。

パラメータフォーマット

AA

AA：要求コード

80：当月月報、81：前月月報、

要求種別パラメータの全体の長さ

2 バイト

例、要求コード：当月月報　の場合

80

8.15.7. 18 FAX デマンド報データ読込要求

FAX デマンド報データ読込要求の要求コードを指定します。

パラメータフォーマット

AA

AA：要求コード

60：固定

要求種別パラメータの全体の長さ

2 バイト

例、60

8.15.8. 19 FAX 日報カウンタリセット要求

アナログ積算、ON 時間積算、オン回数積算、累計のリセットの有無を指定します。

パラメータフォーマット

ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD

項目の並びは順に、項目 1、項目 2、…　項目 8

A：アナログ積算

0：リセットしない、1：リセットする

B：ON 時間積算

A と同じ

C：オン回数積算

A と同じ

D：累計

A と同じ

要求種別パラメータの全体の長さ

32 バイト（4 バイト×8 項目）

例、　項目 1：アナログ積算する、ON 時間積算しない、
オン回数積算する、累計しない
項目 2：アナログ積算する、ON 時間積算する、
オン回数積算しない、累計しない
：
：

の場合

10101100…

8.15.9. 20 FAX 月報カウンタリセット要求

アナログ積算、ON 時間積算、オン回数積算、累計のリセットの有無を指定します。

パラメータフォーマット

ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD ABCD

項目の並びは順に、項目 1、項目 2、…　項目 8

A：アナログ積算

0：リセットしない、1：リセットする

B：ON 時間積算

A と同じ

C：オン回数積算

A と同じ

D：累計

A と同じ

要求種別パラメータの全体の長さ

32 バイト（4 バイト×8 項目）

例、　項目 1：アナログ積算する、ON 時間積算しない、
オン回数積算する、累計しない
項目 2：アナログ積算する、ON 時間積算する、
オン回数積算しない、累計しない
：
：

の場合

10101100…

8.15.10. 21 FAX デマンドカウンタリセット要求

アナログ積算、ON 時間積算、オン回数積算、累計、発生時刻のリセットの有無を指定します。

パラメータフォーマット

ABCDEF……ABCDEF

項目の並びは順に、1 行目項目 1、1 行目項目 2　…　8 行目項目 8

A：アナログ積算

0：リセットしない、1：リセットする

B：ON 時間積算

A と同じ

C：オン回数積算

A と同じ

D：累計

A と同じ

E：予備

0

要求種別パラメータの全体の長さ

384 バイト（6 バイト［予備含む］×8 項目×8 行）

例、　項目 1：アナログ積算する、ON 時間積算しない、
オン回数積算する、累計しない、発生時刻しない
項目 2：アナログ積算する、ON 時間積算する、
オン回数積算しない、累計しない、発生時刻する
：
：
の場合

101000110010…

8.15.11. 22 異常ログ・運転ログリセット要求

異常ログ・運転ログリセットの有無を指定します。

パラメータフォーマット

AB

A：異常ログリセットの有無

0：リセットしない、1：リセットする

B：運転ログリセットの有無

A と同じ

要求種別パラメータの全体の長さ

2 バイト

例、異常ログ：リセットする、運転ログ：リセットしない　の場合

10

8.15.12. 23 トレンド記録一括要求

トレンド記録一括要求の間引き時間コードと間引き量を指定します。

パラメータフォーマット

AABB

AA：間引き時間コード

00：(固定)

BB：間引き量

00：(固定)

要求種別パラメータの全体の長さ

4 バイト

例、0000

8.15.13. 24 PH/PL 設定要求

PH/PL 設定の有無と設定値を指定します。

パラメータフォーマット

AAAAAAAABBBBBBBBCCCCCCCC……BBBBBBBBCCCCCCCC

各項目の並びは順に、アナログアラーム 1、アナログアラーム 2、･･･
アナログアラーム 7、予備

A：PH/PL 設定の有無

0：設定しない　　1：設定する

BBBBBBBB：PH の設定値

8 バイトで指定

CCCCCCCC：PL の設定値

8 バイトで指定

要求種別パラメータの全体の長さ

136 バイト（8 バイト[PH/PL 設定の有無、予備]＋
16 バイト[PH：8 バイト，PL：8 バイト]×8 項目[予備含む]）

例、　項目 1：PH/PL 設定する、PH＝100.00、PL＝0.00
項目 2：PH/PL 設定する、PH＝80.00、PL＝20.00
項目 3：PH/PL 設定しない
項目 4：PH/PL 設定する、PH＝100.00、PL＝0.00
項目 5：PH/PL 設定する、PH＝80.00、PL＝20.00
項目 6：PH/PL 設定しない
項目 7：PH/PL 設定しない
の場合

11011000□□100.00□□□□0.00□□□80.00□□□20.00
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□100.00□□□□0.00□□□80.00□□□20.00
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□は半角スペース

8.15.14. 26 パルスカウント要求

要求年月日を指定します。

パラメータフォーマット

AAAABBCC

AAAA：要求西暦年

4 バイトで指定

BB：要求月

2 バイトで指定

CC：要求日

2 バイトで指定

要求種別パラメータの全体の長さ

8 バイト

例、2002 年 4 月 6 日　の場合

20020406

8.16. 音声指定パラメータ

音声指定パラメータは、以下のように、4 桁の正数を指定します。

1000 の位	音声種別	1（固定）
100 の位	声の高さ	1～5
10 の位	アクセント	1～5
1 の位	話す速さ	1～5

例、　声の高さ　4
　　アクセント　3
　　話す速さ　2　の場合

　　1432　を指定します。

詳細は、TLM の説明書を参照下さい。

8.17. ステータス一覧

メソッドTLXZ_statの復帰値として取得するステータスコード一覧表を以下に示します。

コード番号	意味
０	未オープン状態
１０	初期化開始
２０	ユーザー指定初期化コマンド送出待ち
３０	ユーザー指定初期化コマンド応答待ち
４０	エコー無しATコマンド送出待ち
５０	エコー無しATコマンド応答待ち
６０	自動着信回数設定ATコマンド送出待ち
７０	自動着信回数設定ATコマンド応答待ち
８０	ダイヤル休止時間取得ATコマンド送出待ち
９０	ダイヤル休止時間取得ATコマンド応答待ち
１００	オープン処理済み待機中
３００	着信検出接続待ち
３１０	着信検出ENQ待ち
３２０	着信検出接続完了電文待ち
４００	通信継続コマンド送出待ち
５００	発信コマンド送出待ち
５１０	発信コマンド応答待ち
５２０	発信回線接続待ち
５３０	発信ENQ送出待ち
５４０	発信ACK受信待ち
５５０	発信要求コマンド指示待ち
５６０	発信要求コマンド送出待ち
５７０	発信要求コマンド応答待ち
９００	終了通知送出
９１０	終了通知応答待ち
９２０	＋＋＋前待ち
９３０	＋＋＋後待ち
９４０	回線断ATコマンド送出待ち

メソッドTLM_statのステータスコード一覧を、以下に示します。

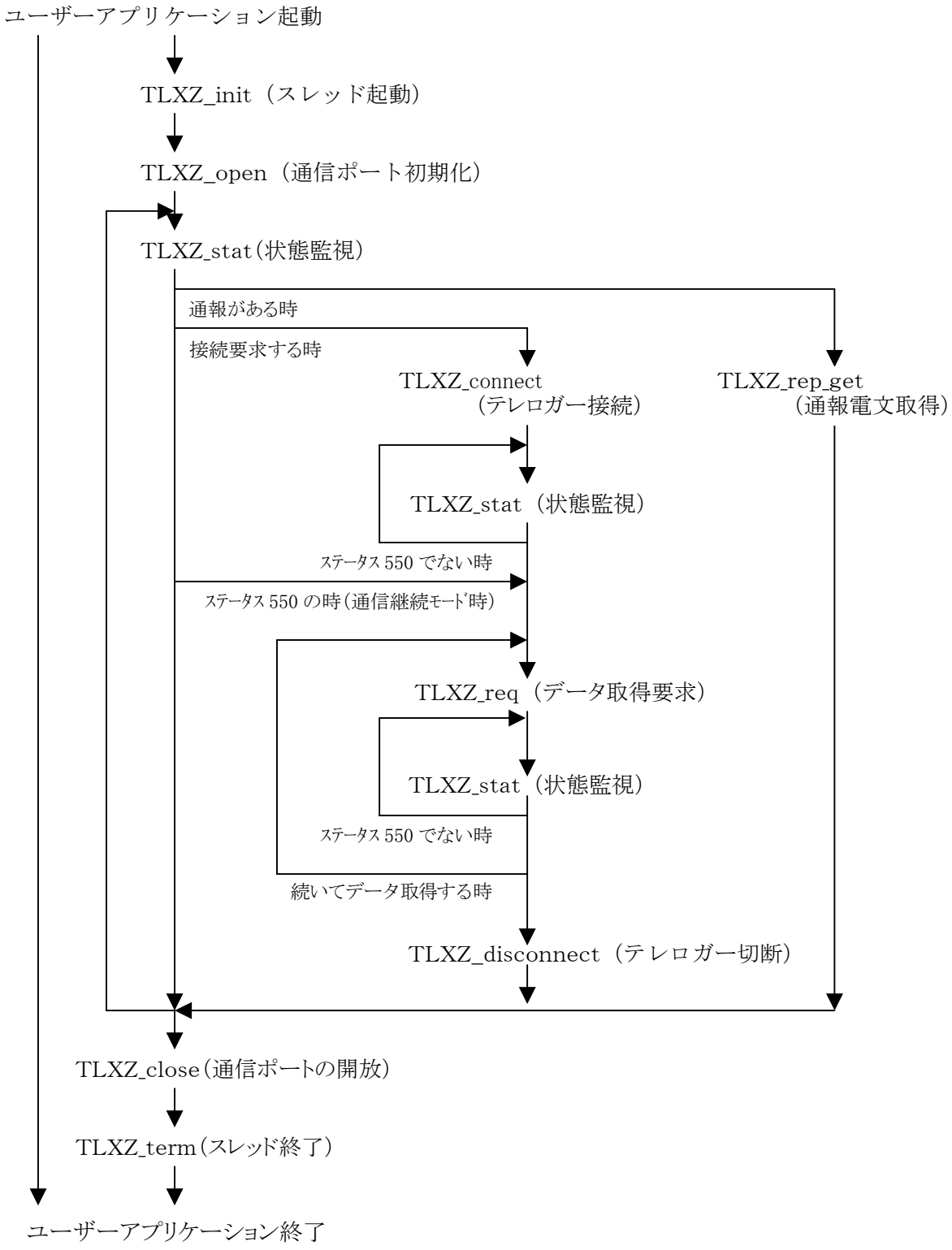
コード番号	意味
0	待機中
１０	通報依頼後、レスポンス待ち

メソッドTLM_statの前回通報時終了コード一覧を、以下に示します。

コード番号	意味
0	正常終了
1	チェックサム異常
2	電文異常
3	送信先種別不良
4	電話回線種別不良
5	電話番号不良
１１	呼び出し無応答
１２	相手先話中
１３	確認記号の入力無し
２０	TLM 通報中
９００	送信時エラー
９１０	レスポンスタイムアウト（コマンド送信後 300 秒レスポンス無し）

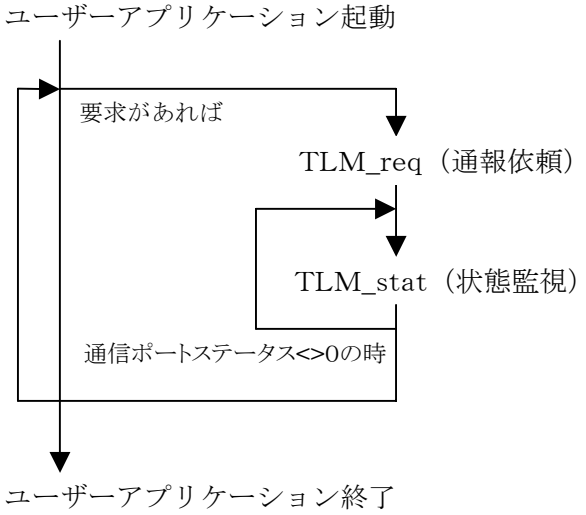
8.18. “テレロガー”での使用方法

テレロガーにおいての呼出シーケンスを、以下に示します。



8.19. “えむとーく”での使用方法

えむとーくにおいての呼出シーケンスを、以下に示します。



9. テレロガーデータ受け渡しファイルフォーマット

以下にテレロガーとの通信データ受け渡しフォーマットを示します。
各フォーマットの項目については、テレロガーの説明書も併せてご覧下さい。

9.1. 通報電文

1行ファイル

AABBBBCCCCDDDDEEEEFFFFGGHHI IJJKKLLLLLLLLLLLLLL

AA	:	通報種別	01	異常通報
			02	運転通報
BBBB	:	テレロガーID		
CCCC	:	通報総数（通信上必要）		
DDDD	:	レコード番号（通信上必要）		
EEEE	:	事象コード		
FFFF	:	発生年		
GG	:	発生月		
HH	:	発生日		
I I	:	発生時		
JJ	:	発生分		
KK	:	発生秒		
LLL.....	:	メッセージ （ビルダーで、通報文付加指定をした場合のみ）		

9.2. 異常、運転ログ及びサマリーデータ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

```
AAAABBBBCCDDEEFFGG↓
AAAABBBBCCDDEEFFGG↓
        :
        :
```

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

```
AAAA,BBBB/CC/DD EE:FF:GG↓
AAAA,BBBB/CC/DD EE:FF:GG↓
        :
        :
```

AAAA	:	事象コード
BBBB	:	発生年
CC	:	発生月
DD	:	発生日
EE	:	発生時
FF	:	発生分
GG	:	発生秒

※受信レコードが複数ある場合は、複数のレコードが記録されます。

9.3. トレンド、間引きトレンドデータ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

```
AABBCCCCDDEEFFGGHHI I I I I I I I.....JJJJ..... ↓
AABBCCCCDDEEFFGGHHI I I I I I I I.....JJJJ..... ↓
        :
        :
```

ファイル名の拡張子が“.CSV”の場合

```
CCCC/DD/EE FF:GG:HH,I I I I I I I I,I I I I I I I I,.....JJJJ,JJJJ,..... ↓
CCCC/DD/EE FF:GG:HH,I I I I I I I I,I I I I I I I I,.....JJJJ,JJJJ,..... ↓
        :
        :
```

AA	:	AI項目数
BB	:	DI項目数
CCCC	:	取得年
DD	:	取得月
EE	:	取得日
FF	:	取得時
GG	:	取得分
HH	:	取得秒
I I I I I I I I	:	アナログデータ（1点を8バイトアスキーで表現）
JJJJ	:	デジタルデータ （1チャンネル（16点）を 16進文字列4バイトで表現）

※受信レコードが複数ある場合は、複数のレコードが記録されます。

※１つのレコードあたりのアナログデータ、デジタルデータの数は、それぞれＡＩ項目数、ＤＩ項目数で示され、項目数はテレロガーの設定内容によって異なります。

9.4. 瞬時値データ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

AAAABBCCDDEEFFGG.....HHHHHHHH.....↓

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

AAAA/BB/CC DD:EE:FF,GG,GG,.....HHHHHHHH,HHHHHHHH,.....↓

AAAA	:	取得年
BB	:	取得月
CC	:	取得日
DD	:	取得時
EE	:	取得分
FF	:	取得秒
GG	:	デジタルデータ（520 点分） （1チャンネル（8点）を16進文字列2バイトで表現）
HHHHHHHH	:	アナログデータ（40 点分） （1点を8バイトアスキーで表現）

9.5. 事象カウントデータ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

AAAABBCCDDEEFFGGGGGG.....↓

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

AAAA/BB/CC DD:EE:FF,GGGGGG,GGGGGG.....↓

AAAA	:	取得年
BB	:	取得月
CC	:	取得日
DD	:	取得時
EE	:	取得分
FF	:	取得秒
GGGGGG	:	カウンタ値（6バイトアスキー）

※事象カウントの項目数は、テレロガーの種類により異なります。

9.6. FAX帳票日報データ読込データ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

```
AAAABBCCDDEEF…FG…GH…HIIJJKKL…LM…MM…M・・↓
AAAABBCCDDEEF…FG…GH…HIIJJKKL…LM…MM…M・・↓
        :
        :
```

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

```
AAAA/BB/CC,DD,EE,F…F,G…G,H…H,II,JJ, KK,L…L,M…M,M…M,・・↓
AAAA/BB/CC,DD,EE,F…F,G…G,H…H,II,JJ, KK,L…L,M…M,M…M.・・↓
        :
        :
```

AAAA	:	取得年
BB	:	取得月
CC	:	取得日
DD	:	レコード総数
EE	:	レコード番号
F…F	:	日報表題
G…G	:	列G見出し
H…H	:	列見出し
II	:	定義
JJ	:	番号
KK	:	帳票引用項目
L…L	:	工業単位
M…M	:	データ　29項目（1項目＝10バイト）
		実量値　×　24時間分
		合計値
		平均値
		最大値
		最小値
		累計値

※受信レコードが複数ある場合は、複数のレコードが記録されます。詳細は、テレロガーの説明書をご参照ください。

9.7. FAX帳票月報データ読込データ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

```
AAAABBCCDDE…EF…FG…GHHIIJJK…KL…LL…L・・↓
AAAABBCCDDE…EF…FG…GHHIIJJK…KL…LL…L・・↓
        :
        :
```

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

```
AAAA/BB/CC,DD,E…E,F…F,G…G,HH,II,JJ,K…K,L…L,L…L,・・↓
AAAA/BB/CC,DD,E…E,F…F,G…G,HH,II,JJ,K…K,L…L,L…L,・・↓
        :
        :
```

AAAA	:	取得年
BB	:	取得月
CC	:	レコード総数
DD	:	レコード番号
E…E	:	月報表題
F…F	:	列G見出し
G…G	:	列見出し
HH	:	定義
II	:	番号
JJ	:	帳票引用項目
K…K	:	工業単位
L…L	:	データ　36項目（1項目＝10バイト）
		実量値　×　31日分
		合計値
		平均値
		最大値
		最小値
		累計値

※受信レコードが複数ある場合は、複数のレコードが記録されます。

9.8. FAX帳票デマンド報データ読込データ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

```
AABBC…CD…DE…EFFGGHHI…IJ…JK…KE…E・・J…JK…K↓
AABBC…CD…DE…EFFGGHHI…IJ…JK…KE…E・・J…JK…K↓
        :
        :
```

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

```
AA,BB,C…C,D…D,E…E,FF,GG,HH,I…I,J…J, K…K ,E…E,・・,J…J, K…K↓
AA,BB,C…C,D…D,E…E,FF,GG,HH,I…I,J…J, K…K ,E…E,・・,J…J, K…K↓
        :
        :
```

AA	:	レコード総数
BB	:	レコード番号
C…C	:	デマンド報表題
D…D	:	行見出し
E…E	:	1列列見出し
FF	:	1列Ai/Diの定義
GG	:	1列Ai/Diの番号
HH	:	1列帳票引用項目
I…I	:	1列工業単位
J…J	:	1列Di瞬時状態
K…K	:	1列データ
E…E	:	2列列見出し
FF	:	2列Ai/Diの定義
	:	
	:	
J…J	:	8列Di瞬時状態
K…K	:	8列データ

※受信レコードが複数ある場合は、複数のレコードが記録されます。

9.9. 一括トレンドデータ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

```
AABBCCCCDDEEFFGGHHI I I I I I I I .....JJJJ.....I I I I I I I I.....JJJJ..... ↓
AABBCCCCDDEEFFGGHHI I I I I I I I .....JJJJ.....I I I I I I I I.....JJJJ..... ↓
          :
          :
```

ファイル名の拡張子が“.CSV”の場合

```
CCCC/DD/EE FF:GG:HH,I I I I I I I I,I I I I I I I I,.........JJJJ,JJJJ,….,
I I I I I I I I,I I I I I I I I,.........JJJJ,JJJJ,…. ↓
CCCC/DD/EE FF:GG:HH,I I I I I I I I,I I I I I I I I,.........JJJJ,JJJJ,….,
I I I I I I I I,I I I I I I I I,.........JJJJ,JJJJ,…. ↓
          :
          :
```

AA	:	AI項目数
BB	:	DI項目数
CCCC	:	取得年
DD	:	取得月
EE	:	取得日
FF	:	取得時
GG	:	取得分
HH	:	取得秒
I I I I I I I I	:	アナログデータ（1点を8バイトアスキーで表現）
JJJJ	:	デジタルデータ （1チャンネル（16点）を 16進文字列4バイトで表現）

※受信レコードが複数ある場合は、複数のレコードが記録されます。

※１つのレコードあたりのアナログデータ、デジタルデータの数は、それぞれＡＩ項目数、ＤＩ項目数で示され、項目数はテレロガーの設定内容によって異なります。

9.10. PH/PL 設定データ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

AAAAAAAABBBBBBBBAAAAAAAABBBBBBBB…….↓

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

AAAAAAAA,BBBBBBBB,AAAAAAAA,BBBBBBBB,…….↓

AAAAAAAA　：　PH 設定値

BBBBBBBB　：　PL 設定値

※PH/PL 設定値データの項目数は、それぞれ７項目（アラームリスト７件分）です。

9.11. パルスカウントデータ

ファイル名の拡張子が“. CSV”以外の場合

AAAABBCCDDDDDDEEEEEEFFFFFF･･･ZZZZZZaaaaaa
bbbbbbDDDDDDEEEEEEFFFFFF･･･ZZZZZZaaaaaabbbbbb↓

上記の文字列は、紙面の都合上、改行しておりますが、実際には２行分が１行となります。

ファイル名の拡張子が“. CSV”の場合

AAAA/BB/CC,DDDDDD,EEEEEE,FFFFFF,･･･ZZZZZZ,aaaaaa,
bbbbbb,DDDDDD,EEEEEE,FFFFFF,･･･ZZZZZZ,aaaaaa,bbbbbb↓

上記の文字列は、紙面の都合上、改行しておりますが、実際には２行分が１行となります。

AAAA	:	取得年
BB	:	取得月
CC	:	取得日
DDDDDD	:	０時締切パルスカウントデータ
EEEEEE	:	１時締切パルスカウントデータ
FFFFFF	:	２時締切パルスカウントデータ
:		
:		
ZZZZZZ	:	22 時締切パルスカウントデータ
aaaaaa	:	23 時締切パルスカウントデータ
bbbbbb	:	翌日 0 時締切パルスカウントデータ

※パルスカウントデータは、各接点の当日 0 時～翌日 0 時までの 1 時間毎カウント値（25 項目）を、合計 16 点分記録します。

9.12. 日時読込データ

1行ファイル

AAAABBCCDDEEFF

AAAA	:	取得年
BB	:	取得月
CC	:	取得日
DD	:	取得時
EE	:	取得分
FF	:	取得秒

10. 使用上の注意事項

10.1. TLCOM のインストール

TLCOM をインストールするディレクトリの名称には、漢字やカナなどの２バイト文字を利用しないで下さい。TLCOM が正しく認識されない場合がありますので、必ず、半角の英数字、アンダースコア“_”を利用して下さい。

10.2. 通信ポート

本ライブラリを利用したアプリケーションと、他のアプリケーションで、通信ポートおよびモデムが競合しないように注意して下さい。

10.3. モデム間の接続確認

テレロガーと回線接続する際の、TLCOM と TLCOM(パソコン)側モデムの動作について、以下に示します。モデム間接続が正しく行われない場合の参考にして下さい。

TLCOM は、TLCOM(パソコン)側のモデムとテレロガー即のモデム間の接続確認を、以下の様にモデムからの“CONNECT”文字列の受信により行っています。

１．TLCOM がアプリケーションから TLXZ_connect により接続依頼を受ける
２．TLCOM が TLCOM(パソコン)側モデムへ接続コマンドを送信する
３．モデム間で接続ネゴシエーションが行われる
４．接続が完了するとモデムから“CONNECT”文字を含む、接続確認文字が送信される
５．TLCOM がモデム間接続の完了を認識する

モデム間接続が完了しない場合は、モデムの設定が必要な場合もあります。設定変更については、モデムの説明書を参考に行って下さい。尚、TLCOM からは、TLXZ_open にモデムの初期化コマンドを送信することも可能です。

10.4. 通報電文の管理

テレロガーから送信される通報電文は、TLCOM 内で以下のように管理されています。アプリケーションの作成時には、これらの点を考慮して下さい。

10.4.1. 通報電文の保存件数

TLCOM が受信する通報電文は、受信時に利用した通信ポート単位に管理され、各通信ポートあたり、最大 10,000 件まで保存されます。アプリケーションにより通報電文が取得されず、通報件数が 10,000 件を越えた場合は、古い通報電文から順に上書きされ、消去されます。

10.4.2. 通報電文保存ファイル

TLCOM は、通報電文を受信すると、一旦ファイル（ファイル名：“Pxxxxx”）にデータを保存し、アプリケーションによって通報電文が取得されると、このファイルを削除します。TLCOM 起動中は、このファイルに対して、変更や削除などの操作を、行わないで下さい。尚、通報電文が取得されないまま TLXZ_close が実行された場合は、このファイルは削除されません。

10.4.3. 通報電文管理期間

通報電文を TLCOM が管理する期間は、通信ポートを、TLXZ_open により初期化し、TLXZ_close により開放するまでの間です。TLXZ_close を実行すると、管理している通報電文は、すべて破棄されます。通報電文を破棄したくない場合は、TLXZ_close を実行する前に、アプリケーションから TLXZ_get_rep で、TLCOM が保存している通報電文を取得して下さい。尚、通報件数は、TLXZ_stat で確認します。

11. サンプルプログラム

TLCOM のインストールディスクには、サンプルプログラムが添付されており、インストール時に“コンポーネントの選択”画面で、[Sample for VisualBasic]を選択すると、指定したディレクトリにインストールされます。

サンプルプログラムは、VisualBasic 6.0 で記述されています。ご利用時には、使用するパソコンに、VisualBasic 6.0 をインストールして下さい。

また、利用可能なディスプレイの解像度は SVGA（800×600）サイズ以上ですが、SVGA（800×600）サイズの場合は、タスクバーにより画面の一部が表示されませんので、以下の手順でタスクバーが隠れるように設定してください。

タスクバーを隠す設定

1．　タスクバー上のアイコンの無い部分で右クリックします。
2．　ショートカットメニューの中から「プロパティ」を選択し、「タスクバーのプロパティ」ダイアログを表示します。
3．　「タスクバーオプション」タブの中から「自動的に隠す」の項目にチェックを入れます。
4．　「OK」ボタンを押しダイアログを閉じます。

11.1. TLXZ 画面

TLX, TLX1, TLZ, TLZ1と接続し、通信を行う画面です。

環境設定ボタン　：　使用環境に関する設定ダイアログを表示します。

要求コマンド　：　テレロガーに対する要求コマンドの設定ダイアログを表示します。

通信スレッド開始　：　TLCOMの通信スレッドを起動し、テレロガーとの発信、受信を可能な状態にします。

通信スレッド停止　：　TLCOMの通信スレッドを停止します。

要求コマンド送信　：　テレロガーに接続し、要求コマンドを送信します。受信データは、指定したファイルに保存されます。

ステータス取得　：　通信ポートのステータス表示とTLCOMが受信済の未読込通報文の数を表示します。

メッセージ更新　：　受信済メッセージをTLCOMから読み込み、メッセージ表示を更新します。

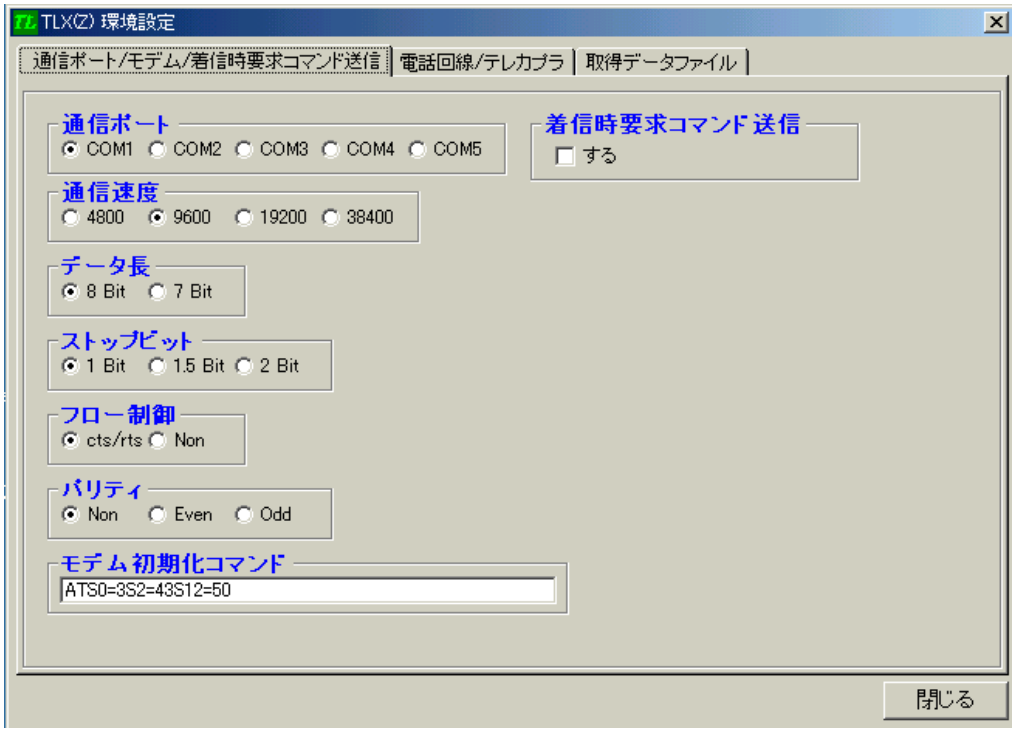
通信スレッド開始ボタンを押すと、通信ポートが初期化されテレロガーとの通信が可能な状態になり、要求コマンドの送信、ステータスの取得、メッセージの更新、通信スレッドの停止が可能になります。

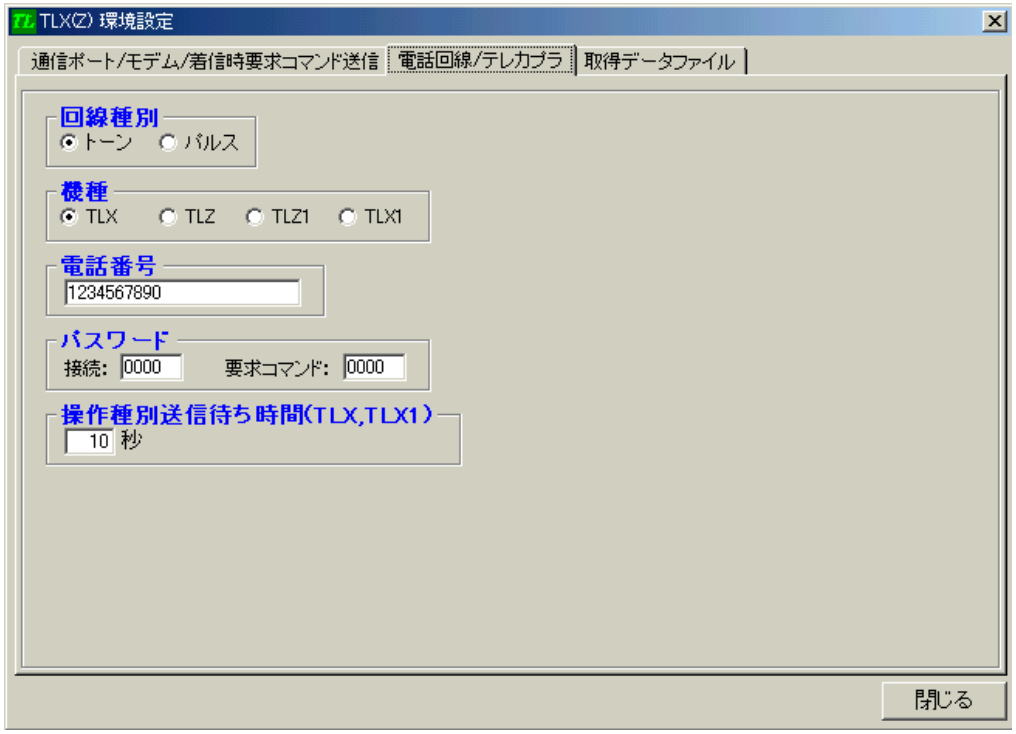
TLXZ 画面

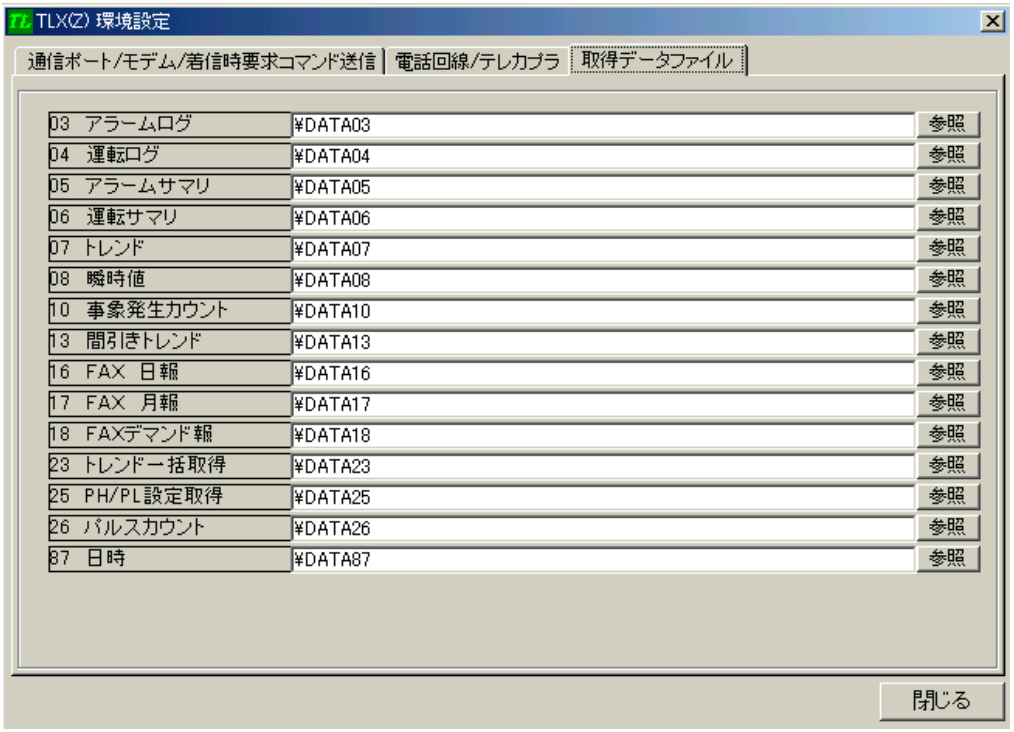
11.2. TLX(Z)環境設定

環境設定ダイアログでは、通信やデータ取得に関する設定を行います。

テレロガーからの着信時に、回線を接続したまま要求コマンドを送信する場合は、“着信時要求コマンド送信”にチェックを入れます。

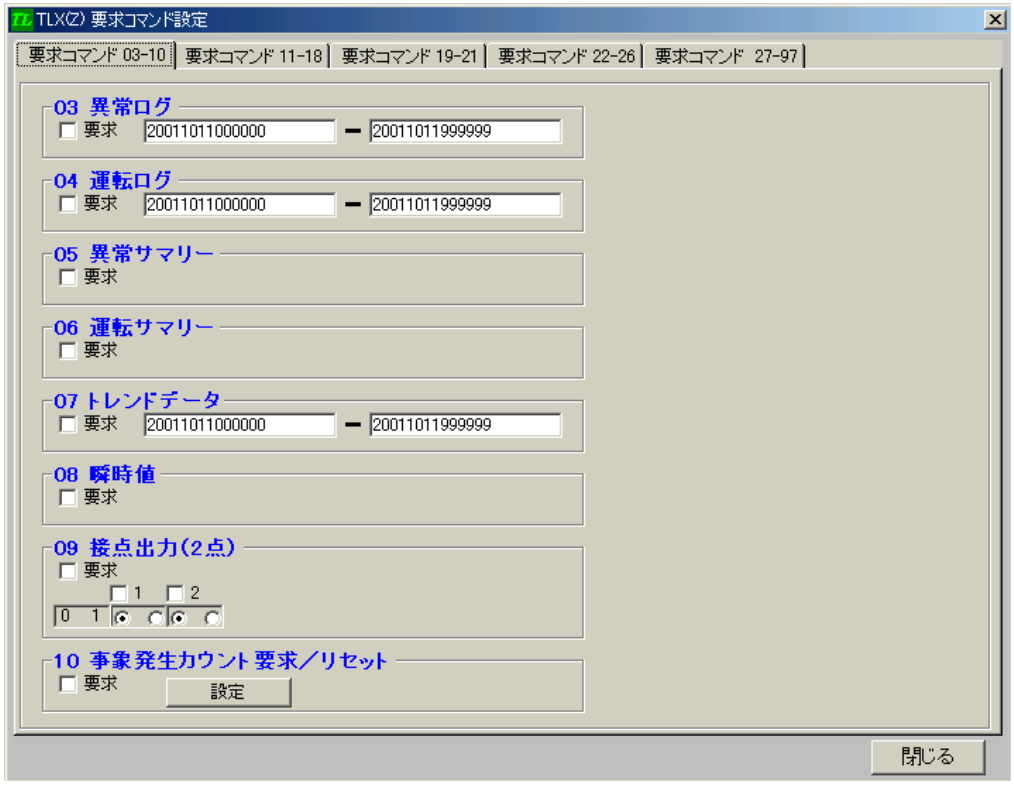


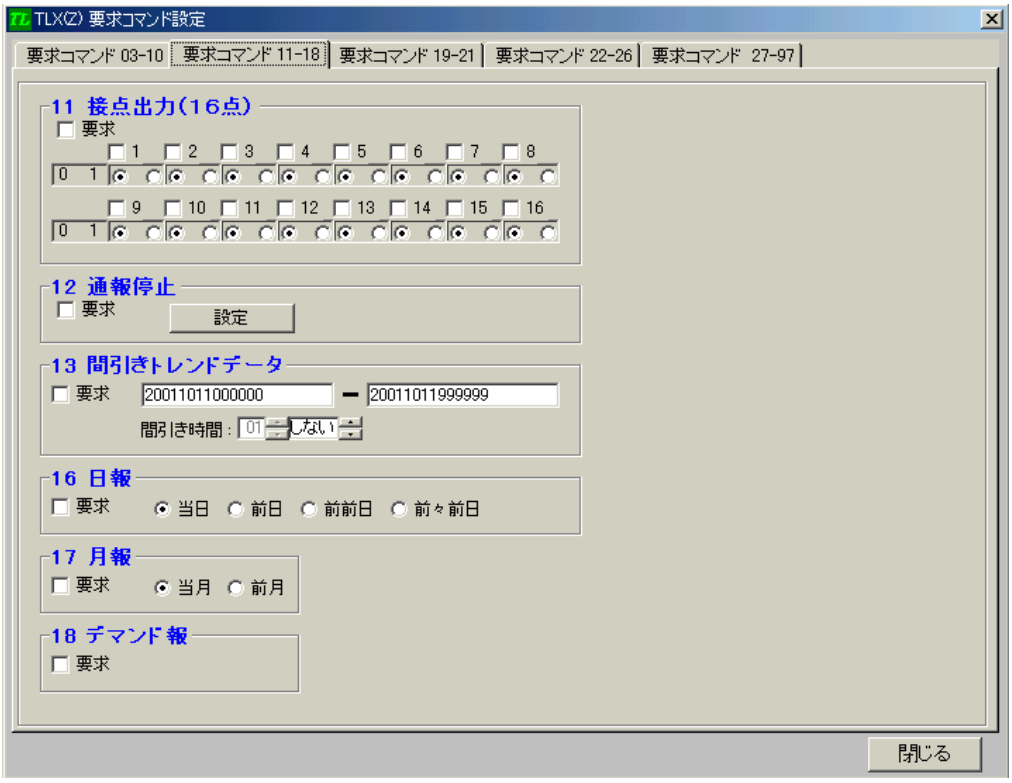

TLX(Z) 環境設定
通信ポート/モデム/着信時要求コマンド送信
電話回線/テレカプラ
取得データファイル
回線種別
トーン
パルス
機種
TLX
TLZ
TLZ1
TLX1
電話番号
1234567890
パスワード
接続:
0000
要求コマンド:
0000
操作種別送信待ち時間(TLX,TLX1)
10
秒
閉じる

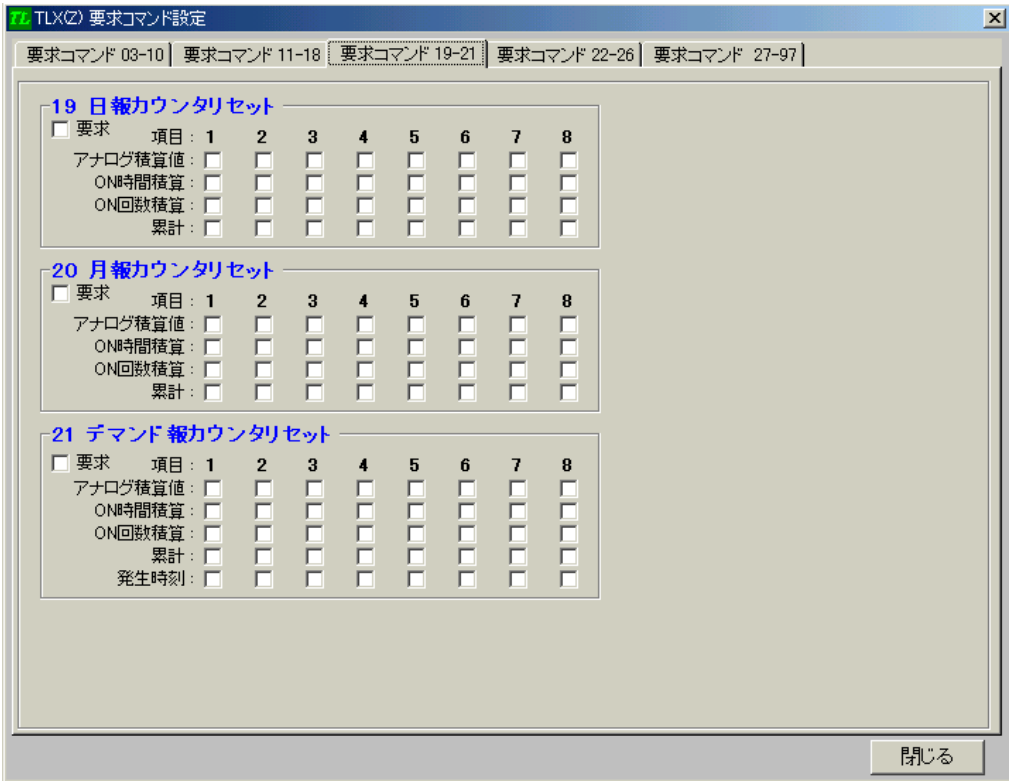

TLX(Z) 環境設定
通信ポート/モデム/着信時要求コマンド送信
電話回線/テレカプラ
取得データファイル
03 アラームログ ¥DATA03 参照
04 運転ログ ¥DATA04 参照
05 アラームサマリ ¥DATA05 参照
06 運転サマリ ¥DATA06 参照
07 トレンド ¥DATA07 参照
08 瞬時値 ¥DATA08 参照
10 事象発生カウント ¥DATA10 参照
13 間引きトレンド ¥DATA13 参照
16 FAX 日報 ¥DATA16 参照
17 FAX 月報 ¥DATA17 参照
18 FAXデマンド報 ¥DATA18 参照
23 トレンド一括取得 ¥DATA23 参照
25 PH/PL設定取得 ¥DATA25 参照
26 パルスカウント ¥DATA26 参照
87 日時 ¥DATA87 参照
閉じる

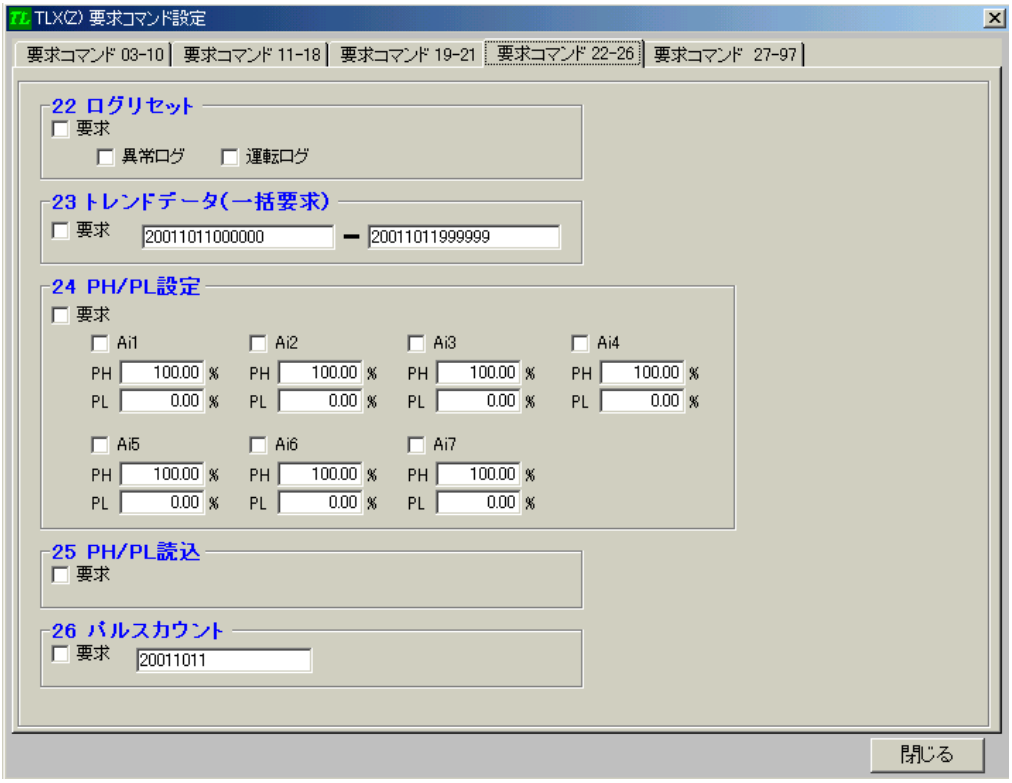
11.3. TLX(Z)要求コマンド設定

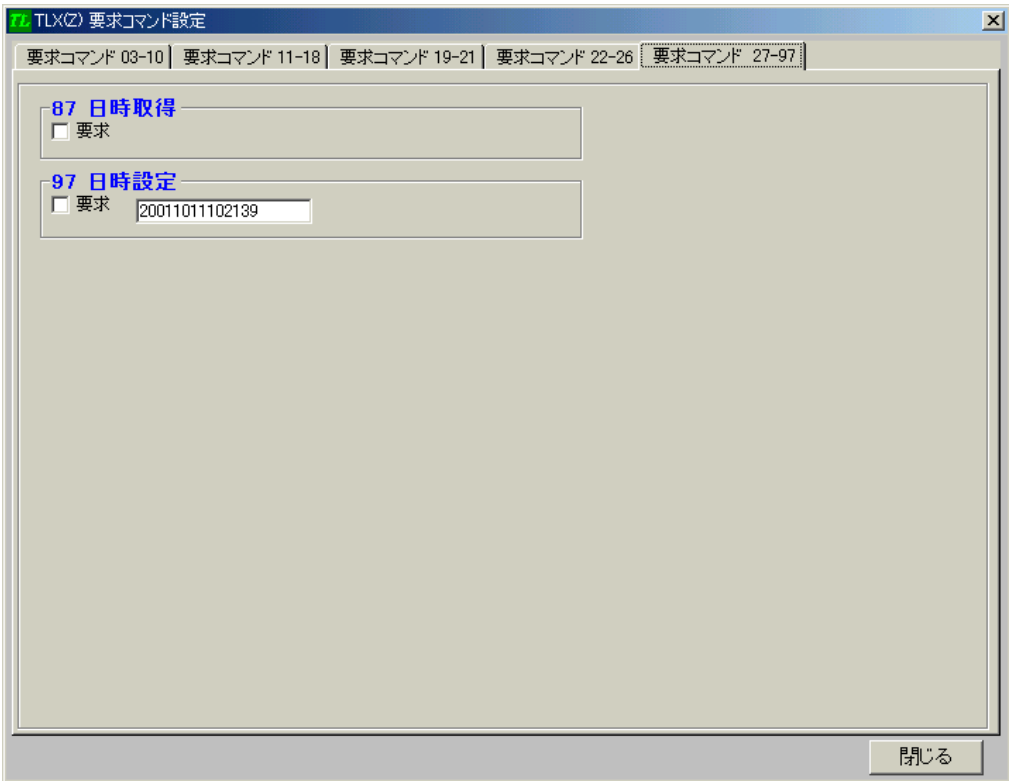
要求コマンド設定ダイアログでは、テレロガーに送信する要求コマンドの設定を行います。



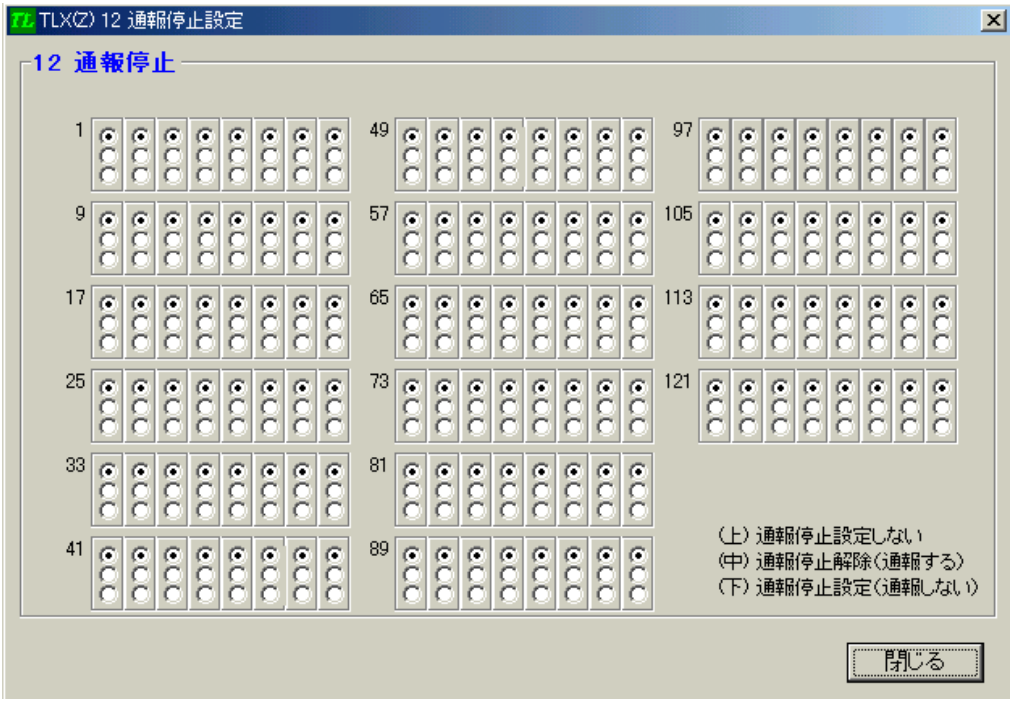

TLX(Z) 要求コマンド設定
要求コマンド 03-10
要求コマンド 11-18
要求コマンド 19-21
要求コマンド 22-26
要求コマンド 27-97
11 接点出力(16点)
要求
1 2 3 4 5 6 7 8
0 1
9 10 11 12 13 14 15 16
0 1
12 通報停止
要求
設定
13 間引きトレンドデータ
要求
20011011000000
20011011999999
間引き時間 :
01
しない
16 日報
要求
当日
前日
前前日
前々前日
17 月報
要求
当月
前月
18 デマンド報
要求
閉じる


TLX(Z) 要求コマンド設定
要求コマンド 03-10
要求コマンド 11-18
要求コマンド 19-21
要求コマンド 22-26
要求コマンド 27-97
19 日報カウンタリセット
要求
項目 : 1 2 3 4 5 6 7 8
アナログ積算値 :
ON時間積算 :
ON回数積算 :
累計 :
20 月報カウンタリセット
要求
項目 : 1 2 3 4 5 6 7 8
アナログ積算値 :
ON時間積算 :
ON回数積算 :
累計 :
21 デマンド報カウンタリセット
要求
項目 : 1 2 3 4 5 6 7 8
アナログ積算値 :
ON時間積算 :
ON回数積算 :
累計 :
発生時刻 :
閉じる


TLX(Z) 要求コマンド設定
要求コマンド 03-10
要求コマンド 11-18
要求コマンド 19-21
要求コマンド 22-26
要求コマンド 27-97
22 ログリセット
要求
異常ログ
運転ログ
23 トレンドデータ(一括要求)
要求
20011011000000
20011011999999
24 PH/PL設定
要求
Ai1
Ai2
Ai3
Ai4
PH 100.00 %
PL 0.00 %
Ai5
Ai6
Ai7
25 PH/PL読込
要求
26 パルスカウント
要求
20011011
閉じる

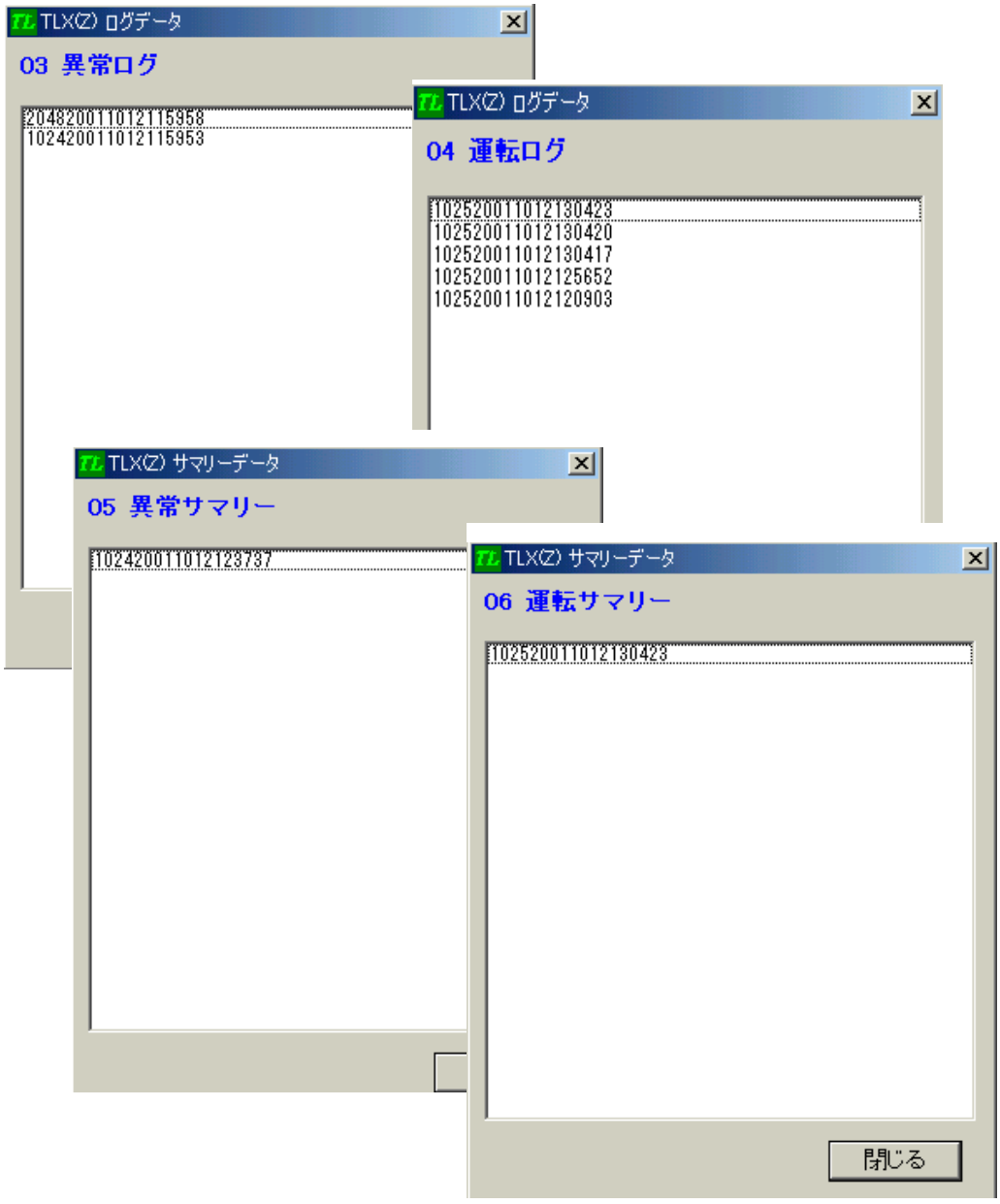

TLX(Z) 要求コマンド設定
要求コマンド 03-10
要求コマンド 11-18
要求コマンド 19-21
要求コマンド 22-26
要求コマンド 27-97
87 日時取得
要求
97 日時設定
要求
20011011102139
閉じる

TLX(Z) 10 事象カウントリセット
10 事象カウントリセット
1-8
9-16
17-24
25-32
33-40
41-48
49-56
57-64
65-72
73-80
81-88
89-96
97-104
105-112
113-120
121-128
閉じる


TLX(Z) 12 通報停止設定
12 通報停止
1
9
17
25
33
41
49
57
65
73
81
89
97
105
113
121
(上) 通報停止設定しない
(中) 通報停止解除(通報する)
(下) 通報停止設定(通報しない)
閉じる

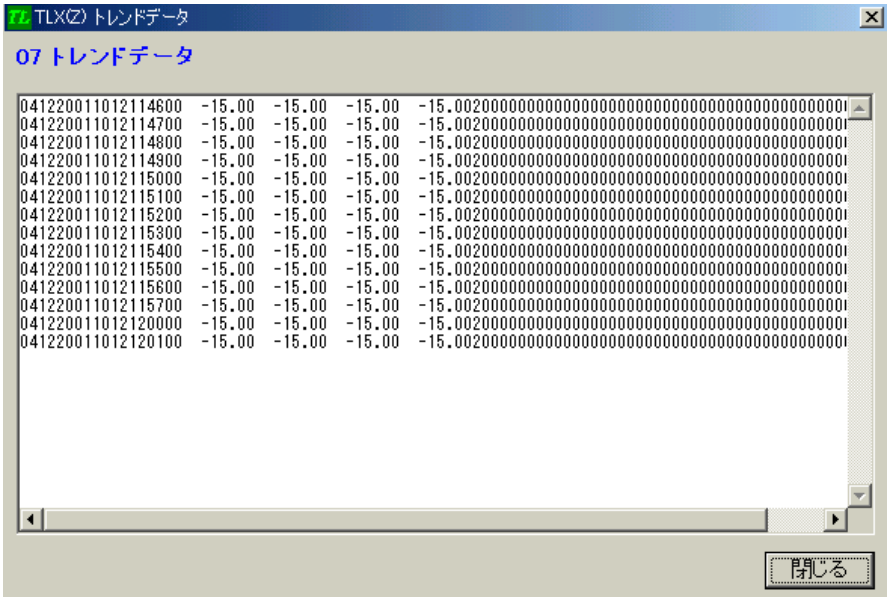
11.4. 03 異常ログ、04 異常サマリー、05 運転ログ、06 運転サマリー表示

受信した異常ログ、異常サマリー、運転ログ、運転サマリーの各データをリスト表示します。



11.5. 07 トレンドデータ表示

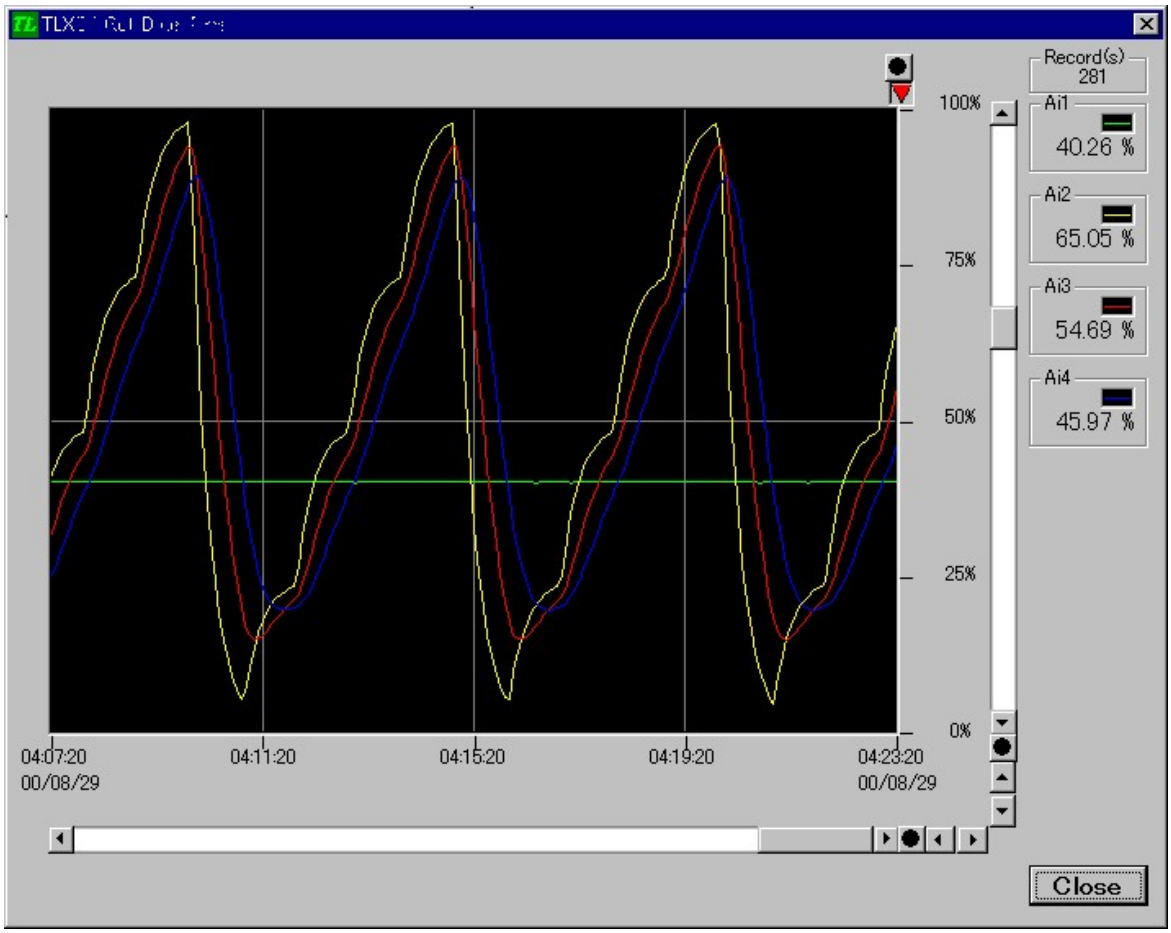
受信したトレンド記録データをテキスト表示します。



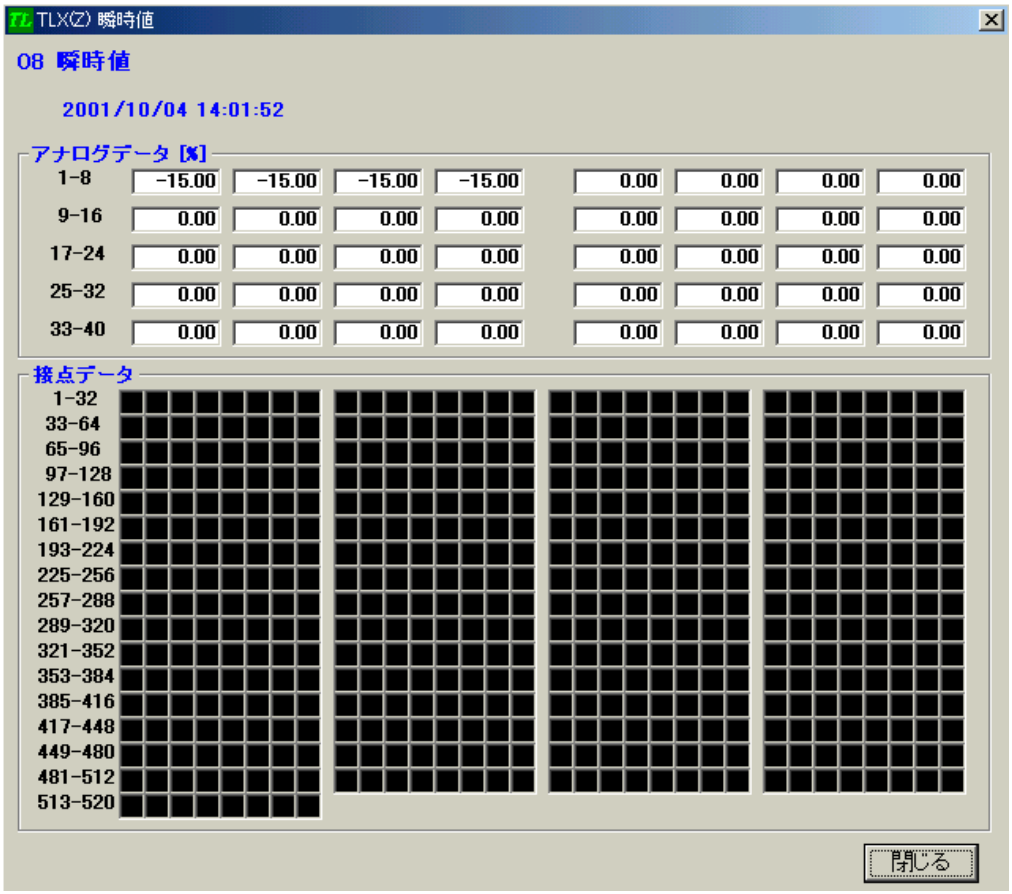
11.6. 07 トレンドグラフ表示

受信したトレンド記録データをグラフを表示します。表示するアナログ値は4点です。

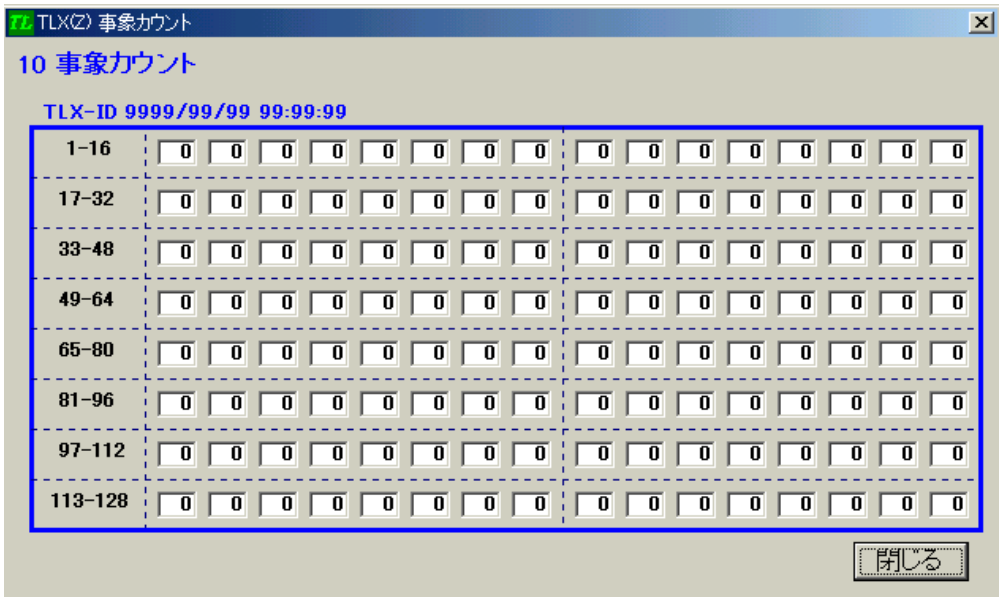
トレンドデータのファイルの拡張子が CSV 以外の場合に表示が可能です。



11.7. 08 瞬時値表示

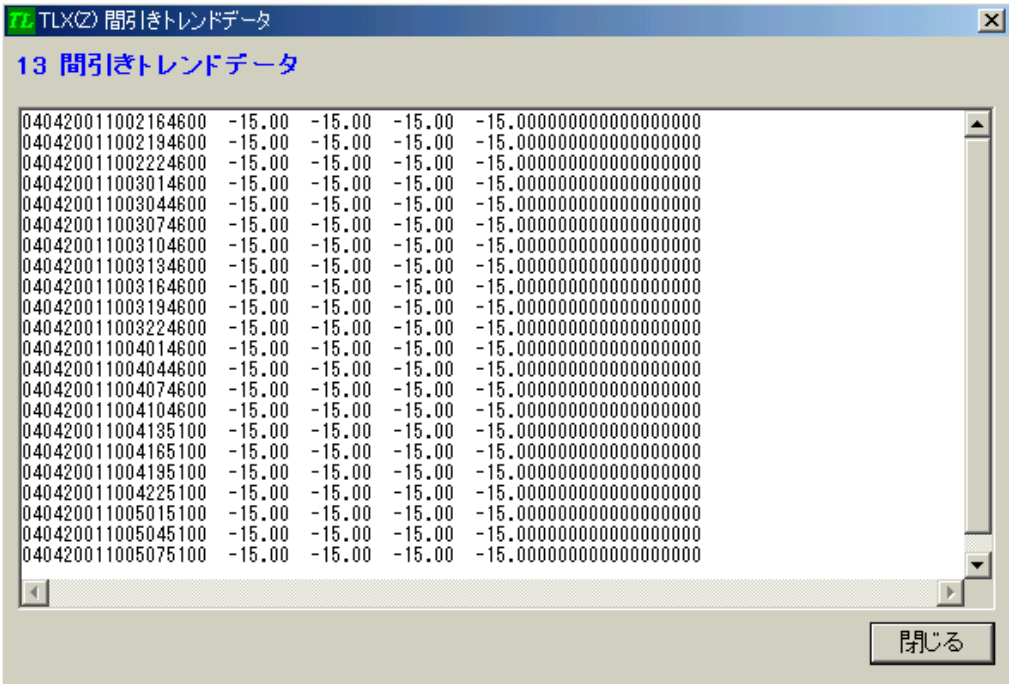

TLX(Z) 瞬時値
08 瞬時値
2001/10/04 14:01:52
アナログデータ [%]
1-8 -15.00 -15.00 -15.00 -15.00 0.00 0.00 0.00 0.00
9-16 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00
17-24 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00
25-32 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00
33-40 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00
接点データ
1-32
33-64
65-96
97-128
129-160
161-192
193-224
225-256
257-288
289-320
321-352
353-384
385-416
417-448
449-480
481-512
513-520
閉じる

11.8. 10 事象発生カウント表示



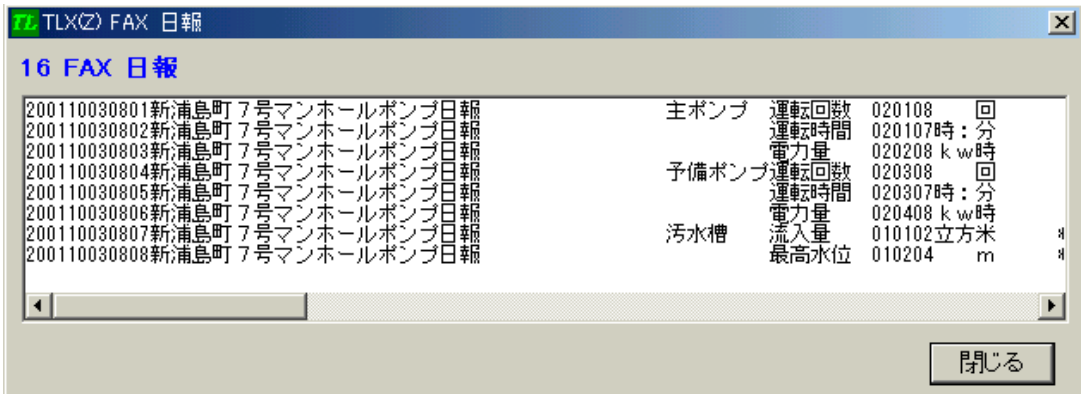
11.9. 13 間引きトレンドデータ表示

受信したトレンド記録間引きデータをテキスト表示します。



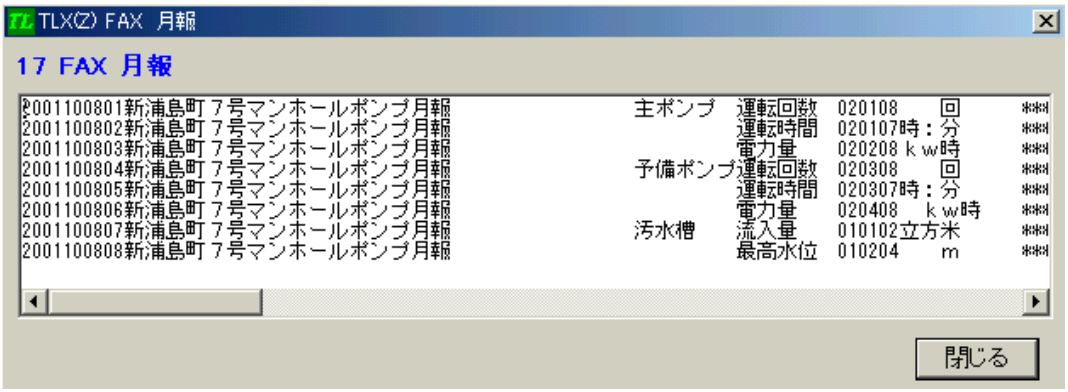
11.10.　16 FAX 日報表示

受信した FAX 日報データをテキスト表示します。



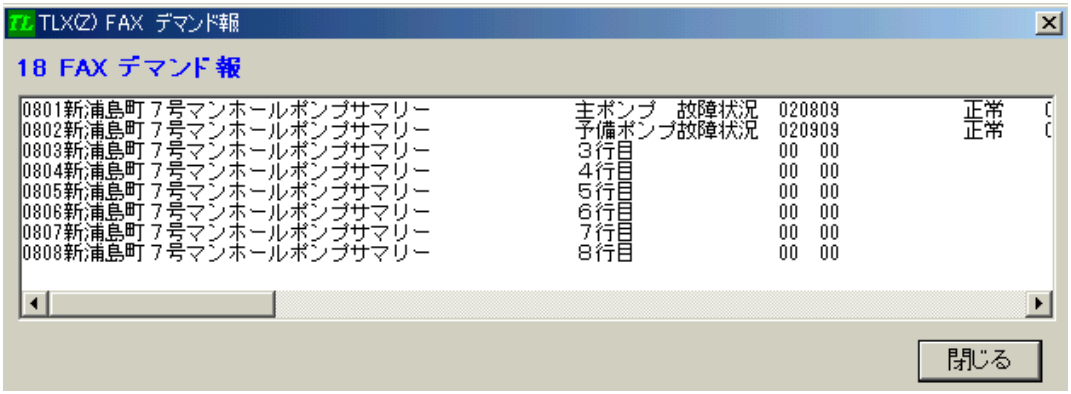
11.11.　17 FAX 月報表示

受信した FAX 月報データをテキスト表示します。



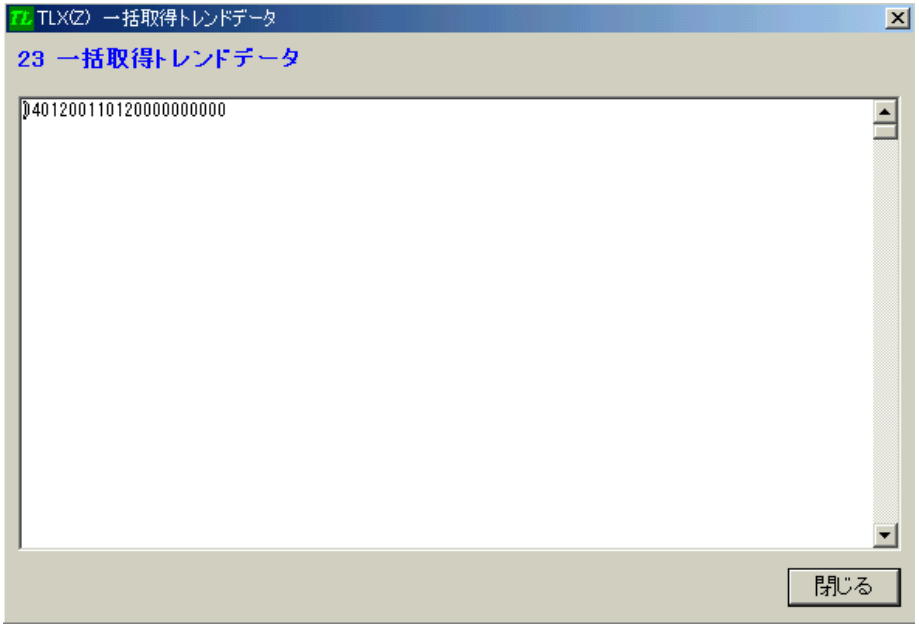
11.12.　18 FAX デマンド報表示

受信した FAX デマンド報データをテキスト表示します。



11.13.　23 一括トレンドデータ表示

受信した一括トレンドデータをテキスト表示します。

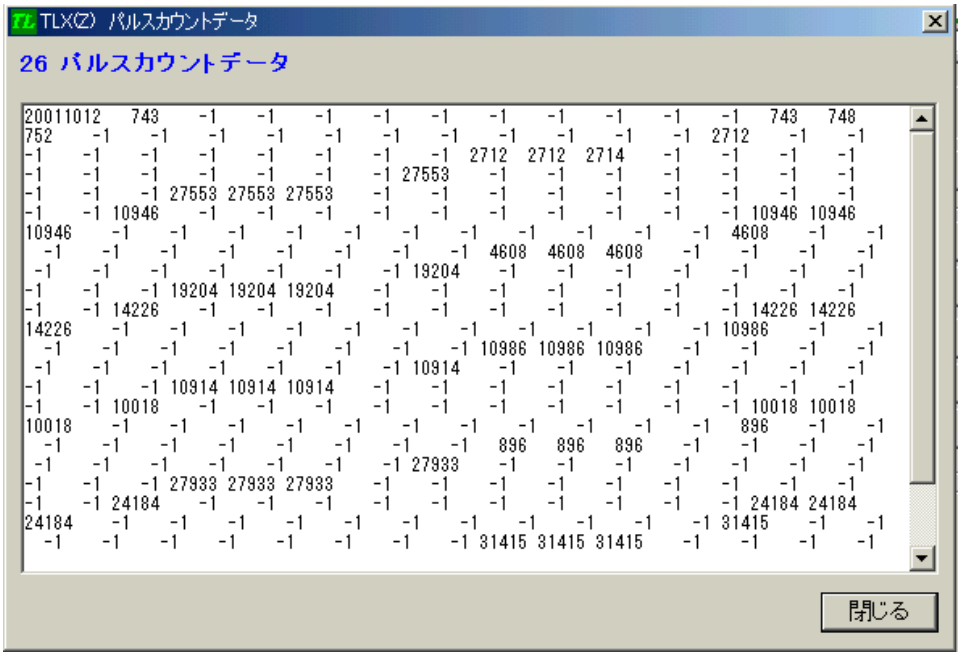


11.14.　25 PH/PL 設定値データ表示

受信した PH/PL 設定値データをテキスト表示します。

11.15.　26 パルスカウントデータ表示

受信したパルスカウントデータをテキスト表示します。

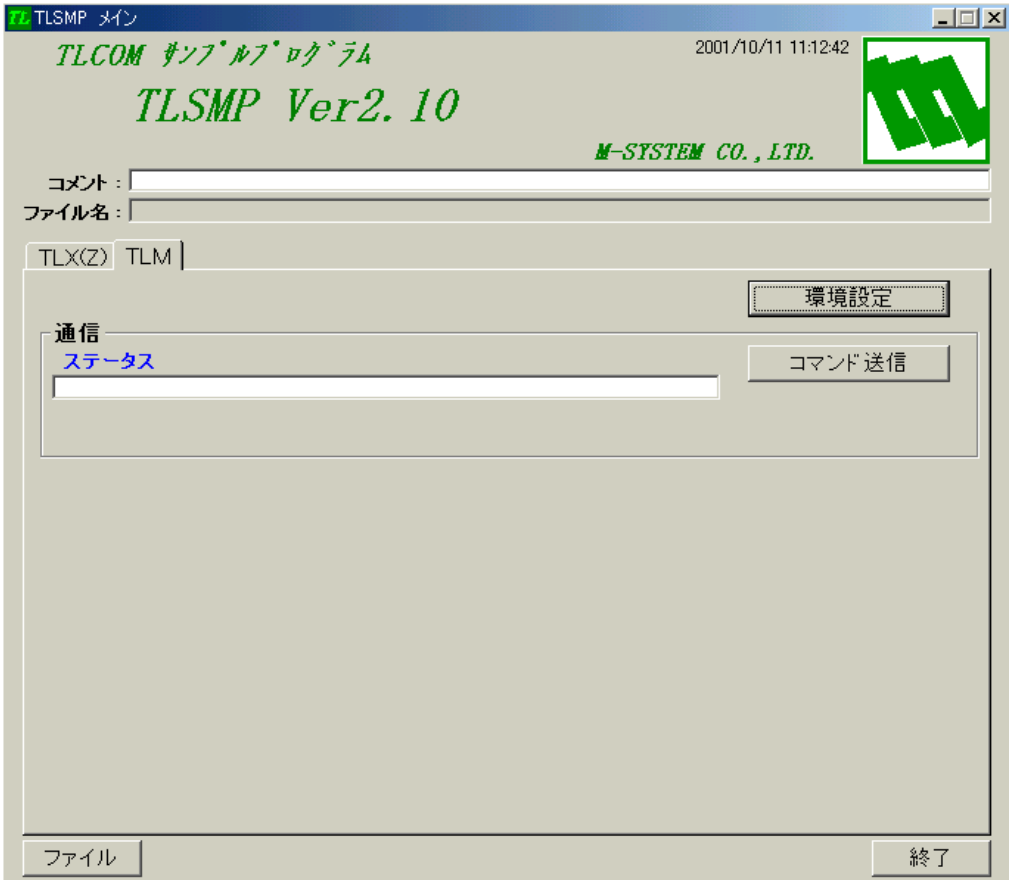


11.16.　87 取得日時表示

受信した日時データをテキスト表示します。

11.17. TLM画面

TLMと接続し、通信を行う画面です。

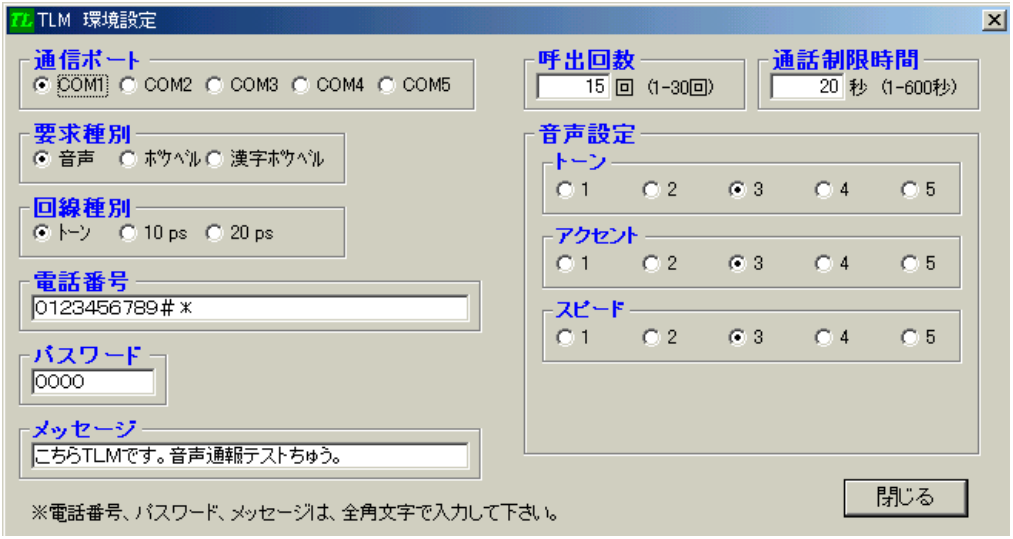


“環境設定”ボタンで環境設定を行います。

“コマンド送信”ボタンを押すと、TLM へコマンドを送信します。ステータスエリアには、TLM との通信状態が表示されます。

11.18. TLM環境設定

TLMとの通信に関する環境設定を行います。



本書で使用される製品名、会社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。